



筑波大学
University of Tsukuba

Tsukuba Communications

vol.2

- 2- インタビュー 学長予定者に聞く
- 6- 対談 「日本の文化をクリエイトする」
モンキー・パンチ氏×谷川彰英理事
(マンガ家)
- 12- 特集 座談会 「男女共同参画」
- 18- 特集 国際生物学オリンピック (IBO)
- 20- 学内組織紹介 留学生センター
- 22- 附属学校紹介 久里浜特別支援学校
- 24- TSUKUBA SPORTS ダンス部
- 26- TSUKUBA ART & CULTURE 落語研究会
- 28- TOPICS 天皇皇后両陛下御来学／受賞／交流
- 30- 羽ばたくOB&OG 乾 正人氏
- 32- リレーエッセイ
- 34- 新聞記事掲載一覧
- 35- イベントカレンダー



山田信博
理事・附属病院長

教職員の意向調査投票、並びに推薦書・略歴書・業績調書・所信表明書等の書面による審査及び各候補者に対する個別面談の結果を踏まえ、平成20年10月31日に、学長選考会議において、次期学長予定者が決定されました。

そこで今回、次期学長予定者に選ばれた、山田信博先生に今後の抱負やビジョンについて伺いました。インタビュアーは、本学の卒業生でもある、教員2人、職員2人が担当しました。

パートナーシップを大事にして
大学の本来あるべき姿を追求していきたい

池田 4月に学長に就任されるにあたって、現在の心境をお聞かせ下さい。

山田病院長 国立大学の法人化以降、大学間の競争的な

側面のみが強調されがちで、真理の探究や新しい知の創造といった大学の本来あるべき姿がかすんでしまっているように感じます。学生や教職員からも大学の魅力が見えにくくなっているのではないのでしょうか。そのような状況は大学の危機だと思います。

大学は、本来やるべきことにもっと集中できる環境にあるべきです。ただし、厳しい環境にあることは現実なので、そこから逃げることはできません。今の状況に向き合い、パートナーシップを大事にして、教職員や学生が一緒になって良い環境を作っていくことが重要です。

大学のあるべき姿が純粋に見えるよう、また、教職員や学生が誇れるような大学にしていきたいと考えていますので、特に若い人たちには、ぜひとも大学のあるべき姿を一緒に追求していただきたいと思います。

池田 筑波大学への転任のきっかけや、赴任当時の印象をお聞かせ下さい。

山田病院長 研究をしていると、可能性が限りなく広がっていきます。同じ志を持つ仲間ができて、研究に広がりが出てくるのはとても楽しいことです。東京大学に勤めていたときには、海外で研究する機会もあり、当初の目標をはるかに超えた成果を得たように思います。ただ、同じところに長くいると、自分のできる範囲が自然と決まってしまうがちです。そういう意味で、新しいところに行き、さまざまなことにチャレンジしてチャンスを広げたい、という思いを持って筑波大学



いけだじゅん
池田潤 准教授
(人文社会科学研究科 文芸・言語専攻 人文学類S58.3卒業)

に来ました。

赴任してみると、非常に自由で伸び伸びとしていて、教員も学生も遠慮せず話をしてくれますし、職場の雰囲気も民主的で、権威主義的でない大学だという印象を持ちました。筑波大学の良い伝統として大事にしていきたいと思っています。

菅谷 新構想大学として創設されてから35年が経過しますが、現在の筑波大学はどのような立ち位置にあるとお考えでしょうか。

山田病院長 歴史の古い総合大学では、富国強兵の時代に大学を中心に日本を発展させていかなければならないという、ある意味で政府の使命と密接に絡み合いながら成長してきた部分があると思います。

ところが筑波大学は、豊かな時代になってきてから、東京教育大学をベースとして新たに総合大学として誕生しました。そこには、本当の総合大学はこうあるべきだという夢や思いが込められていたと思うのです。そこを伸ばしていくことによって、筑波大学のブランドや他の大学との違いが見えてくるのではないのでしょうか。

筑波大学は、多くの可能性を秘めた若い人たちが、既成の観念にとらわれずに柔軟にものを考え、能力を発揮することができる大学だと思います。そこが筑波大学の魅力だと思っています。

元村 現在の大学を取り巻く環境や大学に対する社会の期待について、どのようにお考えですか。

山田病院長 基本的に一番厳しいのは財政的な環境です。基盤的経費が縮減され、競争的資金の比重が増えています。今後も方向としては大きく変わらないでしょう。これまでに引き続き、競争的資金の獲得に向けた基盤整備を強化していかなければなりません。

そのためにも、教育・研究に専念できる環境を作ることが大事だと思います。財政や人的資源の面で制約を受けているのは事実であり、その中で、時間を作り出す工夫をしなければなりません。相当大変なことではありますが、多くの教職員が同じ気持ちを持って臨めば、時間的な資源は工夫して作り出すことができると思います。それによって、教育・研究にゆとりができ、教育・研究の質が向上するという良い循環が生まれることを期待しています。



すが やすみ
菅谷純子 准教授
(生命環境科学研究所 生物圏資源科学専攻 生物学類S63.3卒業・生物科学研究所H7.3修了)

大学は、人が人たるゆえんの最も大事な「考える」ということに、一生懸命に取り組む場です。教育や研究はある意味でライフラインとも言えますし、社会は大学に大きな期待を持っていると思います。法人化して自律性が高まったということは、大学が大いに工夫する余地ができたということです。憶することなくタフに考え、社会の期待に応えていくことが大事だと思います。

多様な交流を進め、真に開かれた大学として成長していくことが重要

石田 教育・研究面で特に重視されることについてお聞かせ下さい。

山田病院長 将来社会に出て活躍するベースを大学で身に付けるわけですから、ぜひ学生の皆さんには、一方的に習うのではなく、問題意識を持って、疑問の解決に向けて考え抜く姿勢を大事にしてほしいと思います。学生時代にいろいろな発見ができると夢が広がっていきますから、大学で将来の夢の原点を作っていたいただきたいと思っています。

大学としては、教育の質をきっちりと保証していかなければなりません。教育を受ける側から見て評価され得るものを確立していきたいと考えています。また、問題に遭遇したときに、いろいろな解決策を選択できるような、問題解決のチャンネルを広げる形での教養教育というものも大事だと思います。

研究に関しては、専門分野によって違いがあると思いますが、例えばライフサイエンスの分野では、ある一定規模の運営能力を備えたチームがないと、なかなかうまくいかない部分もあります。多様な研究を効率よく推進し、しかもある程度現代のニーズに応えることのできるような研究体制を整えていくことが重要です。各々の分野でどのように筑波大学としての存在感を示していくか、各部局の先生方と対話しながら、

特に若い人たちが研究に専念できるような環境を整備していきたいと考えています。

池田 留学生30万人計画が政策として示されていますが、国際化の推進について展望をお聞かせ下さい。

山田病院長 教育と研究の水準を国際的にも優れたレベルに高めていくことが、何より重要です。外国人教員や留学生の確保に向けて、生活環境を含めた諸条件を着々と整備していく必要もあります。そういう意味でも、国際化拠点大学の選定にはしっかりと対応していかなければなりません。ただ、それは決して短期的な事業ではありませんから、中長期的な視点をもって取り組んでいくつもりです。

また、留学生を迎えるだけでなく、筑波大学の学生が海外に出て見聞を広めることも大事ですので、双方向の国際交流を進めていきたいと思っています。

石田 つくば市や茨城県における筑波大学の役割については、どのようにお考えですか。

山田病院長 地域との交流はあってしかるべきですし、何らハードルを設ける必要はないと思います。つくば市や茨城県と交流を深めていくのは当然のことで、これは国際的に存在感のある大学を目指していくこととまったく矛盾しません。

例えば、病院にいらっしゃる患者さんはまさに地域の方々です。その地域の患者さんを診ることによって、私たちは勉強もさせていただき、医療に貢献し、全国・世界に発信していくことができるのです。UCバークレーもカリフォルニアあつてのバークレーです。筑波大学も国際的で全国区の大学ですが、やはりつくば市と茨城県あつての筑波大学であると思います。

多様な交流をしていくと、教職員にとって社会が広がり、大学の幅も広がっていくと思います。筑波大学には、地域の方に活用していただく素材がたくさんありますし、学問分野によってさまざまなアプローチの方法があると思います。私は「開かれた大学」という建学の理念がとても好きですし、真に開かれた大学として成長していくことが重要だと考えています。



もとむらあきお
元村彰雄 主任
(企画室 人文学類H6.3卒業)



いしだあきこ
石田亜希子 係員
(研究事業部 研究企画課 比較文化学類H19.3卒業)

双方向のコミュニケーションを大切にして
健全な総合大学を作り上げていきたい

菅谷 大学運営にあたって、教職員とのコミュニケーションをどのように図っていくとお考えですか。

山田病院長 双方向のコミュニケーションを大切にしていきます。執行部として大事だと考えていることをしっかり発信するとともに、部局の状況をきちんと理解することが重要だと思っています。

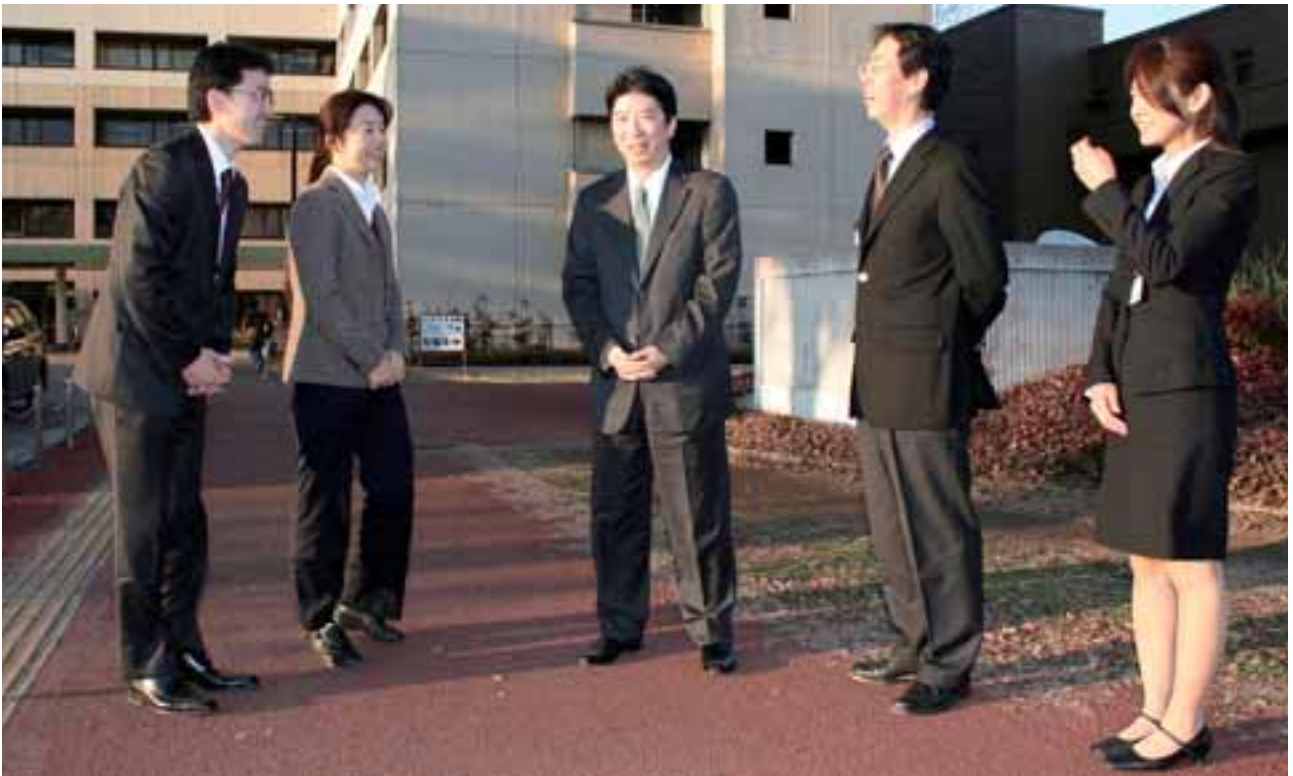
私自身、各部局の建物や研究室、教室の状況などを拝見する機会があり、大変勉強になりました。教職員の皆さんにとっても、他の部局のことを知るのはいかに有益でしょう。相互にコミュニケーションを取り、見聞を広め、対話を深めながら、健全な総合大学を作り上げていきたいと思っています。特に強調したいのは「健全な」という点で、どこかに偏りがあつたり無理があつたりしてはいけないと思っています。

元村 筑波大学のブランドや他の大学との違いというお話がありましたが、その点についてもう少し詳しくお聞かせ下さい。

山田病院長 受験生や在学生・卒業生が、「筑波大学はこうだ」とイメージできるようなブランドを創っていきたくと考えています。例えば、私が気に入っているのは「つくばダイヤモンド」です。Creativity、Integrity、Friendliness、Strength、Enthusiasm、Intelligenceの6つですね。これはとても良いと思います。学生の皆さんにもぜひ知っていただきたいですし、そういう個性を身に付けて社会に出ていってほしいと思います。筑波大学の卒業生が、つくばダイヤモンドの6つの個性を大事にして社会をリードしてくれたら、良い世の中になりますよ。

石田 特別支援学校を含めた11校の附属学校を擁していることも筑波大学の特色ですね。

山田病院長 附属学校は大事な財産です。各学校で、いろいろな可能性を持った多くの子ども達が育っています。大学と附属学校の交流についても、個々の事例を聞くと、双方にメリットがある良い交流が行われている



左から元村、菅谷、山田、池田、石田の各氏

ことが分かります。附属学校の先生方との対話も深めながら、相互交流を一層進めるための具体的な取り組みを考えていきたいと思ひます。

元村 先生ご自身は、これまでどのような研究に取り組んでこられたのですか。

山田病院長 最初は動脈硬化の研究をしたいと思ひていました。当時は糖尿病の研究グループが動脈硬化の研究をしていたこともあって、糖尿病と動脈硬化の両方に興味を持つようになりました。

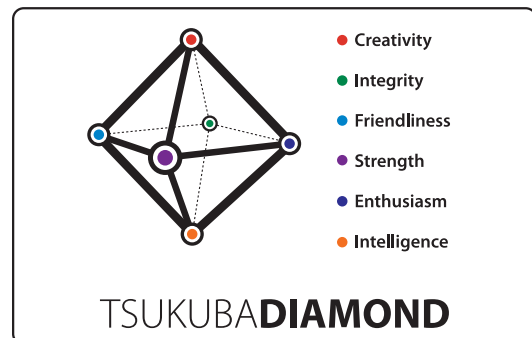
研究テーマとしていたタンパク質はその頃あまり注目されていなかったもので、実はそれほど強い興味を持っていたわけではありませんでした。ところが研究を進めるにつれて、そのタンパク質が動脈硬化やコレステロールの代謝と深く関係するということがわかってきました。さらにアルツハイマー病とも関連するということが学術雑誌で大々的に発表されて大いに注目されるようになり、今世の中を騒がせているメタボリック・シンドロームの研究にもつながってきています。このような過程を経験してきましたので、研究とは本当に面白いものだと思ひています。

菅谷 学長就任後に、まず重点的に取り組むたいと思ひておられることをお聞かせ下さい。

山田病院長 筑波大学には、教育力のベースはしっかりとあります。それを生かして、学生が社会人として通用するだけの教養的・専門的な知識や能力を身に付けて卒業できるよう、教育の質をきちんと保証していくことが大事だと考えています。また、総合大学として研究力

を高めていくための環境や競争的資金の獲得力強化に向けた体制の整備にも注力していきたいと思ひます。

教員・職員の皆さんは、大学という人類にとって大切な場所で、教育と研究の質の向上に向けて協働するパートナーだと思ひています。お互いに良いところを伸ばし、足りないところを補いながら、ぜひ筑波大学の発展のために一緒になって努力していきましょう。



つくばダイヤモンドの6つの頂点について

国立大学法人としての新たな大学像を表現し、より親しみやすい大学の顔をアピールするためのコミュニケーションシンボルとして「つくばダイヤモンド」を新たに設定します。ダイヤモンドという言葉はギリシャ語 (αδαμασ) に由来し、「adamus=決して征服されない」という意味を持っています。「つくばダイヤモンド」は正8面体のダイヤモンドの結晶の形をしており、その6つの頂点に筑波大学が大切にしようとしている「6つの個性」を配置しています。

6つの個性とは、

1. **Creativity** : クリエイティビティー (創造的であること)
2. **Integrity** : インテグリティ (誠実で期待を裏切らないこと)
3. **Friendliness** : フレンドリネス (親しみやすく親切なこと)
4. **Strength** : ストレングス (肉体的・精神的に強く持続力があること)
5. **Enthusiasm** : エンthusiasm (情熱にあふれ集中力が高いこと)
6. **Intelligence** : インテリジェンス (知性に富み体系的な知識をもつこと)

であり、この6つの個性をダイヤモンドの結晶のようにバランスよく発達させ、決して何ものにも屈することなくいつまでも輝き続ける筑波大学及び筑波大学人のあるべき姿勢を象徴しています。



対 談

「日本の文化を クリエイトする」

モンキー・パンチ氏 × 谷川 彰英 理事
(マンガ家)

現代とマンガ

谷川 筑波大学の本格的学内誌Tsukuba Communicationsが2008年10月に創刊されました。創刊号の対談テーマは「地球環境問題を考える」というものでしたが、今回は趣を変えて、日本の文化活動のトップを走り、外国にも絶大な影響を与えてきたマンガ家をお迎えして対談しようということになりました。

テーマとしては、「日本の文化をクリエイトする」といったものにしましたが、あまり難しくせず、マンガを通じて日本の文化、ひいては大学の在り方についても言及してみたいと考えています。

今回のゲストは日本人なら誰でも知っていると言っていていいでしょう。マンガ家のモンキー・パンチ先生です。モンキー・パンチ先生といえばやはり「ルパン三世」*ですね。どのようにして「ルパン三世」が生まれたのかも含めてお尋ねしていきたいと思います。今日はよろしくお願いします。

モンキー よろしくお願いします。

谷川 最近、首相の漢字の読み間違いが続いて、おまけに首相がマンガ好きだと自他ともに認めているため、「漢字が読めない人がいるのはマンガばかり読んでいるせいだ」と指摘する人が出てきています。これはマンガ文化に携わっている者としては見逃せないことだと思いますが、いかがでしょう。

モンキー 最近の風潮はちょっと違うと思いますね。まだマンガについての偏見が残っているように思えてなりません。ぼくの経験では小・中・高校時代、教科書よりもマンガで漢字を覚えました。大体、学校の教育が人生に役立ったという実感はほとんどありません。教科の勉強なども自分に意味があったかといわれると、なかったように思います。

しかし、漢字の書き取りは学校で一番でしたよ。マンガを読んだり描いたりする中で自然に漢字も覚えました。マンガを描くには相当の情報が必要で、マンガ家の手法にもよりますが、実証的なマンガを描く人

は、実に多くの文献にあたり、多くの本も読んでいます。

例えばさいとう・たかおさんの代表作「ゴルゴ13」*は国際色豊かなマンガですが、空港に降り立つシーンを1つ描くだけでも、その国の社会情勢などを調べて描いているんです。難しい話が出てきて、まるで授業でも受けているようなマンガもありますよ。ぼくはそういうマンガは描きませんがね(笑)。

谷川 それに、マンガ家は言葉を大切にしていますね。一つひとつの言葉をよく選んで、同じことをくり返すときには端的に表現したり、言葉に対するセンスは詩人のようだと感じます。マンガというのは絵と文字とコマ割りとストーリーでできているのですが、吹き出しに入れるネーム(セリフ)などは、相当言葉を選ばなければいけませんね。狭いスペースに読者に伝える言葉を書き込むわけですから、相当に考えざるを得ないので。

ただ漫然とマンガを読むのではなく、マンガ・リテラシーのようなものを学ぶ必要があるように思います。問題はマンガの読み方と、どんなマンガを読むかですね。大衆文化はピンからキリまでですからね。

マンガ少年の思い出

谷川 モンキー先生は、子どものころにはどんなマンガを読まれていたのですか。

モンキー ぼくたちが子どものころは、マンガは読んではいけないもの、見てはいけないもの、学校に持ってきてはいけないものでした。

それでも、「のらくろ」、「サザエさん」、「フクちゃん」、「冒険ダン吉」などはよく読んでいました。そして終戦になって手塚治虫先生がマンガを描き始めると、まさにマンガ漬けでした。少年雑誌の付録のほとんどがマンガでした。とにかく、手塚先生の登場は大きかった。

手塚先生はマンガの神様などと言われることがありますが、私たちの年代のマンガ家に決定的な影響を与えてくれました。ぼくたちの世代にとって、手塚先生

「ルパン三世」

モンキー・パンチ原作のマンガ。もとは『漫画アクション』の創刊号(1967年8月10日号)から1969年5月22日号まで連載された。1971年テレビアニメ化されたことによって一大ブレイクした。

主人公のルパン三世は、モーリス・ルブランの「アルセーヌ・ルパン」にヒントを得て命名しているが、物語には特に関連はない。

英語ではLupin the 3rdと知られ、世界各国でアニメなどが作られ上映されている。中には原作とはほど遠いルパンの絵が横行していたりする。

「ゴルゴ13」

さいとう・たかおの代表的マンガアクション。超一流のスナイパー(狙撃手)である「ゴルゴ13」ことデューク東郷が活躍するストーリーである。

国際社会を舞台に、紛争・ゲリラ・テロリズムなど、危険な綱を次々とクリアしていく。

1968年11月から『ビッグコミック』で連載を始め、すでに40年に到達している。我が国でも最長のロングセラーである。リード社による単行本は実に150巻、文庫本でも120巻を数えている。



たにかわ あきひで
谷川 彰英氏

平成12年 教育研究科長
15年 学校教育部長
16年 筑波大学理事、附属学校教育局教育長
19年 筑波大学理事、副学長
専門は学校教育学だが、マンガにも詳しい。
日本漫画家協会会員、マンガジャパン幹事。

は憧れの的でした。今の時代にはそんなシンボリックな作家はいませんね。

とにかくぼくの町には本屋がなくて、父親が出張帰りに買ってきてくれたり、友だちが手に入れたマンガを読ませてもらったり、どこかでおもしろいマンガが手に入ったと聞くと、知らない家でも訪ねて行って読ませてもらいました。

谷川 やはりマンガ家になる方は違うんですね。私などは信州の田舎だったので、まともにマンガを読むというよりも、野山を駆け回るので精いっぱいでした。『少年サンデー』などの週刊誌が出たのが私の中学生のころですので、そのころはマンガに触れることはなかったです。

先生は自分でも描かれていたのですか。

モンキー はい。夢中になって読んでいるうちに描いてみたくなって、そのために小学生新聞をとって、募集があると必ず投稿していました。中学生になると中学生新聞。ハガキに描いた4コママンガですが、けっこう掲載されましたよ。

マンガ一冊をボロボロになるまで読んで、自分でもマンガを描いて、マンガがないと生活できないような生活環境でした。

谷川 マンガのどんなところに惹かれたのですか。絵ですか、ストーリーですか。

モンキー 両方でしょうね。だから小説もよく読みました。江戸川乱歩とか。中学生になると翻訳本にも挑戦して。

谷川 小説を読んでいると、マンガのストーリーを考えるセンスが育つのではないですか。

モンキー 小中高で頭がいい人は本を読んでいたね。外国の翻訳本とか芥川龍之介とか。読む力があってたのでしょね。

当時マンガを読んでいたいちばん驚いたのは、新聞に載っていたアメリカのホームドラマの4コママンガでした。アメリカの一般家庭が描かれているのだけれども、家庭内がみんな電化されている。掃除機、トースター、電話など。日本は食べるものがなくて困っている昭和20年代に、アメリカの家庭はすっかり電化されて広い庭に犬がいて。ものすごく新しく見えました。ディズニー映画なんて、ぼくが生まれた昭和12年にすでに「白雪姫」を作っているわけですよ。ああいうのを見ると目が西洋に向いて、アメリカには憧れがありました。

谷川 私はアメリカに対する憧れというよりもコンプレックスが強かったですね。敗戦国だったという意識が強くて、逆にアメリカ文化への抵抗感の方が強かった感じがします。

マンガを生んだ風土

谷川 マンガ家の中には、昆虫採集をしたり、魚釣りをしたり、子どものころの自然体験がもとになっている人もいますね。手塚治虫先生もそうですし、「釣りキチ三平」*の矢口高雄先生もそうですね。自然の中で遊び、自然と触れる中でいろいろなことを学んできたという作家さんも多いわけです。

モンキー先生の場合はそのパターンとはかなり違うように見えるのです。それにこれは私の勝手な憶測ですが、ルパン三世のような作品は実は自然には直接関係なくて、北海道という地域の特性に依拠しているように見えるんですが、いかがでしょう。

「釣りキチ三平」

矢口高雄の代表作。1973年から10年間『少年マガジン』に連載され、多くの子どもたちに釣りブームを起こした。それまでは釣りなどというどちらかといえば静かな印象を与える遊びがマンガになるなどは誰も考えていなかったが、矢口はアユ釣りの豪快なアクションを絵に表現し、多くのファンを獲得した。

矢口は秋田県の山の中で生まれ育った環境をテーマにした多くの作品を描いたが、それらの作品は学校の教科書の教材としても活用されている。

「釣りキチ三平」は2009年映画としても公開される。

モンキー 北海道ですから、自然が当たり前だという感覚がありますが、私のマンガにはあまり自然体験は出しませんね。北海道の片田舎で、自然は厳しいけれど景色はとてもいいところです。

谷川 北海道はアメリカの文化と近いような気がします。先住民がいるところにいろいろな地域の人が入ってきて、北海道に「鳥取」や「広島」という地名があったりする。そうやって、いろいろなバックグラウンドの人がひとつの社会をつくろうとする点では同じですし、そういう地域だからこそその発想がありますね。過去のことよりも新しいことを考え、地面をみるよりも星を見ながらロマンを感じているような。

モンキー そうです。いまさら地面のことを描いてもしょうがない。北海道出身のマンガ家は同じような考え方を持っていますね。例えばいがらしゆみこさんの「キャンディ・キャンディ」*のほか、SF作家も多いですね。特に、情報がないのが良かったと思います。都会では情報が次々と入ってくるけれども、当時の田舎では、情報といえばラジオくらいしかありませんでした。新しい情報がなかなか入ってこないところにマンガがあると、想像の世界が一気に広がってどんどん膨らんでいくわけです。そして、次の情報もなかなか入ってこないから、想像の世界がいつまでも残っているのです。

「ルパン三世」誕生のきっかけ

谷川 先生の代表作といえば、もちろん「ルパン三世」ですが、この作品はたぶん日本で生まれた作品の中でも国際的に最も愛されている作品だと思います。ルパン三世が生まれたきっかけは何だったのですか。

モンキー 1967年にマンガ雑誌『アクション』が創刊されることになりましたね。ヤング向けの新しい週刊誌で、ストーリーマンガを載せようという企画でした。あの頃はそういう雑誌はなかったので、画期的でした。その『アクション』に載せるから何か描きたいものはないかと編集者に聞かれたわけです。ぼくはまだ30歳頃の新人

「キャンディ・キャンディ」

日本を代表する少女マンガ。原作水木杏子、原画いがらしゆみこで、『なかよし』に1975年3月号から1979年3月号まで連載された。

舞台となったのは20世紀初頭のアメリカ中西部とイギリスで、明るく生きる孤児のキャンディの成長する姿を描いたもの。

1976年10月から1979年2月にかけてテレビアニメ化され、爆発的なヒットをした。単行本の累計発行部数は約1200万部とされ、空前の売れ行きを示した。

参考までに記すと、谷川が担当していた人間学類の授業に特別出演してもらったこともある。



モンキー・パンチ氏 [マンガ家]

本名 加藤一彦

1937年北海道浜中町生まれ。

日本を代表するマンガ家、デジタルクリエイター

デジタルマンガ協会会長

大手前大学教授

東海大学専門学校電気科中退、東京工科大学大学院 修士課程修了

代表作に「ルパン三世」「一宿一飯」など。

だったので、これはチャンスだ、今すぐに描きたいものを言わなくては、と思ひましてね。いろいろ考えました。そのときにたまたま、子どものころに読んだアルセーヌ・ルパンを思い出して、「ルパンをマンガにしたい」と話したのです。それがきっかけでした。アルセーヌ・ルパンはモーリス・ルブランの小説で、20数巻ありましてね。冒険的なところがおもしろくて、中学校時代に読んでいました。

谷川 ルパン三世のキャラクターというと、ルパン、次元、五工門、銭形警部などが浮かびますが、そのうち、ルパンや銭形警部などは国籍不明です。女性キャラクターとしてはやはり峰不二子ですね。不二子は日本人という設定で、永遠の美女というか憧れの女性ですが、どんな経緯で生まれたのでしょうか。

モンキー この作品はやはり青年向けですから、出版社のほうが読者サービスを考えていました。ですが、ルパンをはじめ男性のキャラクターはともかく、不二子はなかなか描けなくて苦労しました。ルパン三世を描く前のことですが、もともとぼくは女性が描けなくて、「色気がない」と言われていました。あたりまえです。専門的に絵を学んだことがないので、学校に行って絵の勉強をしました。女性のモデルを前にしてクロッキーを3年くらいやって、やっと描けるように

なりました。アメリカの写真雑誌が入ってくるようになると、今度はその写真を見て絵の練習をしました。今は大学でマンガを教えています、学生にクロッキーをやらせています。初めは、みんな同じような絵を描くのです。

谷川 同じことはバロン・吉元さんから聞いたことがあります。何年も美術学校に通って女性の絵が描けるようになったと言っていました。そうそう、ちばてつやさんも最初は女性の絵が描けなくて困ったと言っていました。絵の上達には、他人の絵を真似ることから始めるといいますが、そういうことでしょうか。

モンキー そうです。最近の若い人たちは流行の絵をみんな真似るのです。だから、どうしても同じような絵になってしまう。それはそれで問題なのだけれども、それはしょうがないと思うこともあります。自分たちも手塚先生を真似たものです。誰が見ても手塚先生の真似に見える絵を描いていて、ただ、それがあるときから違う方向へ目覚めていって、そこで個性が生まれるのです。

世界に広がる「ルパン三世」

谷川 今、ルパン三世は世界中に広がっていますね。世界の反応はどうか。

モンキー 反応はあります。私は世界各地に講演に行っています。中国、台湾から中近東まで行きました。はじめは、中国、台湾は海賊版が中心でした。30年くらい前でしたか、仲間と台湾に行ったのですが、店に行くときけっこう日本のマンガが置いてある。ぼくのマンガがあるかな、と思って店頭をのぞいたら、「先生、ありましたよ」と仲間が言ってくれました。海賊版ですから、喜んでいいのか、悲しんでいいのかわかりませんが。でも買って来ましたよ(笑)。

今は正規のものがほとんどですけれどね。

谷川 やはり、どこの国に行っても通用する無国籍なキャラクターだから受け入れられるのでしょうか。

モンキー ぼくは、大和魂などはいっさい出しません。環境破壊のような社会問題を扱うアニメもあるけれど、それは専門の人に扱ってもらえばいいから、ぼくは扱いませんね。教訓のようなことを主人公に言われると、しらけちゃってね。たしかに必要なことだし、観客に自然と感じさせるならいいけれど、あえてセリフで言われると今まで娯楽だったものが一気にしらけてしまいます。いっさいセリフでは言っていないのに感じさせる、というほうがぼくは好きですね。

谷川 まわりが「これはこういうことを言っている作品だ」とはつきり言い過ぎてしまっているところもありま

すね。宮崎駿の「風の谷のナウシカ」とか「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」など、確かにすごい作品ではあるんですが、これは環境だ、これは辺境だとメディアが吹聴するものだから、なんとなくその作品からあるテーマを抽出しなければならないといった傾向が生まれています。「もののけ姫」を見て、小学校4年生が「感動した」などと書いているのを見て、私は疑問でしたね。宮崎駿の思想なんて小学生にはとても理解できないと思うんですが、その辺はどうでしょう。

モンキー 人が感動したって言うと、自分もそう言わないと遅れちゃうのではないかと、感動したと言っているほうが無難なのではないかという感覚があるのでしょね。

谷川 ルパン三世では、教訓めいたことはまったく言いませんね。もともと、ルパンは悪人です(笑)。

モンキー そう。悪の美学っていうとおかしいかもしれないけれど、悪は裏返すと善になるということもあります。そういうところにあこがれている部分もあります。

谷川 ブラックジャックも半分は悪ですね。医師の免許を持っていなくて、高い手術料を取ったり。でも、それが魅力なわけです。

モンキー 勸善懲悪も好きですけどね。最近は、DVDで勝新太郎の「座頭市」を観るのにはまっています。ずいぶんたくさんの巻数なのだけれど、何も考えなくて観られるのがいい。観ている間は娯楽として楽しんで、観終わった後にただ「面白かった」というだけで何も残っていないところがかえっていい。黒沢作品のように観終わった後に何かが残る映画もいいし、「座頭市」のように消化しきってしまっても何も残らない映画もいい。つくる人の個性ですね。私には教訓めいたものは似合わない感じがしています。

クリエイターとしての3つの条件

谷川 モンキー先生は、大手前大学のマンガコースの教授でもあるんですが、大学でどんなことを教えているのですか。

モンキー 何を教えていいのかぼくにもわからなかったのだけれど、今までの経験やどういう描き方をしているかを伝えてくれればよいと言われましてね。今年で4年になりますが、ようやく教え方がわかってきました。

1年生には、マンガの世界観や現状、マンガ家がどのくらいいるか、外国のマンガの現状などを教えています。2年生になると、原稿用紙を前にしてどうやってマンガを描くのか、下描きの仕方から教えます。3年生からは、作品をつくらせます。

今年卒業する40人の中から4人がマンガ家としてデ



ビューしました。確率としてはいい方で、ホッとしました。なかには、他の仕事に就く人もいますが、なるべくマンガを生かした仕事に就けるといいですね。

谷川 大学生を教えてみて、今の若者は昔と変わったと感じませんか。特に男の子が弱くなっているような気がしませんか。

モンキー いやいや、そんなに変わっているとは思いませんよ。昔から弱いばかりでしたよ。昔は情報がなかったからわからなかっただけじゃないでしょうか。昔から女の子のほうが強くて、男の子はおとなしい子ばかりでしたよ(笑)。

ただ、昔と違って今は生まれたときからいろいろな情報があって映像にも慣れてるから、色の感覚などは断然うまいですね。

谷川 創作能力やオリジナルなものを出す力はどうですか。内面的に盛り上がってそれを外に出していく、というような力が強くない気がするのですが。

モンキー たしかにそうかもしれませんが、まだ、きっかけをつかんでいない段階なのではないかと思っています。どっかできっかけをつかめば、新しいものが出てくるのではないかと思っています。

ぼくはいつも学生たちに、クリエイターとして3つのことが必要だと言っているのです。

それは次の3つです。

- 作品がわかりやすいこと
- 面白いこと
- そして新しいこと

この3つを抑えていれば、クリエイターとしてはずれていないと言っています。

谷川 それは、すごいことですね。大学の研究分野でも一緒です。自分でわかっていない人ほど、難しく書いたり、誰かに似たものを書いたりします。読んでいて面白くない論文というのは、いちばん困ったものです。マンガ家さんは生活がかかっているのです、この

3つの条件を満たしていないと食っていけないわけですが、それに比べれば、大学に籍を置く我々は甘い感じがします。

たぶん、それは大学の教授たちにはクリエイターという意識がないからだと思います。新しい価値を創造するという発想があまりないのですね。

モンキー この3つの原則を備えたマンガは売れる、といつも言っているのですよ。

谷川 だから、大学の先生の本は売れない(笑)。

モンキー これは我々でも難しいですけどね。

マンガ文化の未来

谷川 先生はデジタルマンガ協会の会長をされているんですが、デジタル化していく時代のマンガの将来について、お聞かせください。

モンキー マンガの将来は明るいと思っています。だからぼく自身もデジタルマンガ協会をつくったわけです。確かに雑誌や単行本の売れ行きは減っていますが、そういう時代になると予想していました。

しかし、今の若いマンガ家さんたちはほとんどコンピュータでマンガを描くようになってきました。はじめからネットや携帯で配信することをめざしてデジタルでつくるマンガ家がいともいいと思います。さらに、もっと違うハードが出てくる可能性もあります。

日本のマンガは世界に通じる貴重なメディアです。これを伸ばしていくことが日本には求められています。マンガの将来は明るいと思います。

谷川 本日はありがとうございました。





座談会

本学における男女共同参画の 現状と今後の課題を語る

人間の可能性と多様性を尊重し、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作り上げるため、平成20年4月に「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針」が制定され、同年5月に「男女共同参画推進室」が設置されました。今後は、これらの理念等を広報し、教職員の方々に理解していただくとともに、男女共同参画社会の形成に積極的に寄与していきます。

【筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針】

基本理念

筑波大学は、人間の可能性と多様性を尊重し、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作り上げるため、以下の理念のもとに、男女共同参画社会の形成に積極的に寄与する。

1. 男女の人権の尊重、個人の尊厳の確立
2. 性別にかかわらず個人としての個性と能力発揮の機会の確保
3. あらゆる分野における諸施策の企画・立案及び決定への男女の対等な参画の推進
4. 男女共同参画社会の実現に向けた国際協力の推進

基本方針

基本理念に基づき、次に示す基本方針に添って行動する。

1. 男女共同参画の視点に立った教育・研究・就業の確立
2. 教育・研究・就業と家庭生活との両立支援
3. 女性教員増加のための公募型教員採用方式の拡充
4. 女性教職員の役職登用の促進
5. 教職員・学生への啓発活動の推進
6. 地域社会・国際社会との連携を通じての男女共同参画の推進

◆女性教員を増加させるためには

姫岡 司会の男女共同参画推進室長の姫岡です。今日は大きく3つのテーマ「女性教員を増加させるための施策」、「女性教職員の役職登用促進」、「出産・育児・介護に携わる者への支援体制」についての本学の現状と今後、男女共同参画推進室としてどのように男女共同参画を推進していくかについてご意見をいただきたいと思います。初めに、男女共同参画推進委員会委員長でもあります波多野理事から、男女共同参画推進室が設置された趣旨について説明をお願いいたします。

波多野 男女共同参画推進室が設置されたのは平成20年の5月になりますが、元々は10年ほど前に学内の女性教員が自発的に立ち上げた「女性教員懇話会」で5つの目標、①通称使用、②セクハラ相談窓口の設置、③保育所の設置、④育児休業、介護休業の取りやすい環境づくり、⑤公平な採用、昇任が掲げられたということがありました。①から③については既に達成していますが、④、⑤については現在も取り組み中です。

「基本理念・基本方針」に、特に「女性教員増加のための公募型教員採用方式の拡充」、「女性教職員の役職登用の促進」という形で具体的に明記されたのは、このうち⑤が重要との懇話会の認識が元になっていると理解しています。この基本理念・基本方針を策定したのは平成19年の10月に設置された男女共同参画推進委員会ですが、諸施策を推進するために男女共同参画推進室が設置されたわけです。

姫岡 ありがとうございます。それでは、本日1つ目のテーマであります「女性教員を増加させるための施策」についてご意見を伺いたいと思います。分野別の教員数を見てみると、人文系は着実に増えていて思われますが、理工系は相変わらず少ないようです。学生にしても、理工系の修士課程修了者は比較的多いようですが、博士課程となると極端に少なくなっています。これは何が影響していると思いますか。

相山 私の専門は数学ですが、現在男女に関係なく大学等への就職は難しい状況で、女子学生は研究者になる目的のみに集中しきれない環境にある、あるいはあったために、早くから研究者になることは諦めてしまっているのではないのでしょうか。修士課程入学前後からの研究テーマの選び方でも、数学者としての就職に有利なように話題性のある最先端のものを選ぶのではなく、自分の興味に従って比較的とりかかりやすいテーマで論文を執筆するのではと思います。

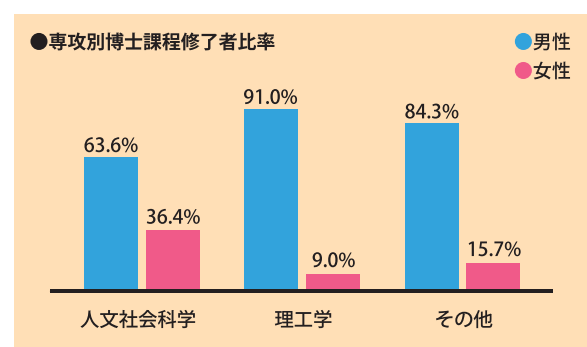
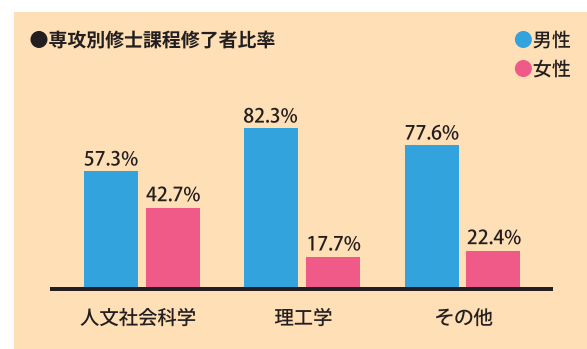
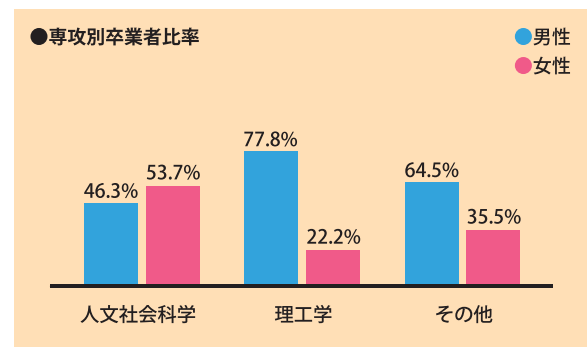
姫岡 私はジェンダーが専門ですが、最近ジェンダー

の世界も認められてきていますが、大学院生の頃には「ジェンダーなんかでは就職できないよ。一般的なテーマの方がいい」と言われてきました。

相山 確かに就職しやすいテーマを与えられてもうまくいくとは限りません。だったら好きなテーマで研究しようという考え方もあります。

李 芸術の分野ではここ数年、学生の男女比率が逆転していますが、分野の特性から趣味で絵を描くのが好きという学生が専門として選ぶことも多く、博士まで進んで学力を高めようという意識はまだまだ低いようです。だからと言って、女子学生が増えるだけでは問題は解決しません。男性は社会的地位や名誉を求めたり、家庭生活において収入を得る必要があるからより上を目指すけど、女性は地位よりも1つのものを極めたいという意識が大きいのではないのでしょうか。

また、今後は女性教員のロールモデルを増やしていなくてははいけません。これは使命だと思って



総務部職員課作成 (2008.5.1 現在)

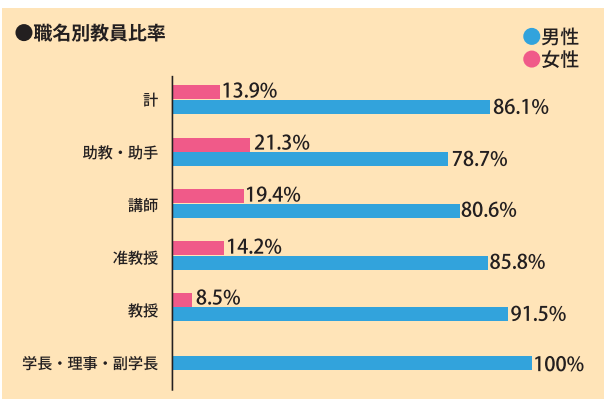


はたの すみ お
波多野 澄雄 (人事・評価担当副学長)
 男女共同参画推進委員会委員長

います。ありがたいことに、私の職場は上司の理解も非常にあり、かなり恵まれていると思います。私には3歳の子どもがいて保育所に預けていますが、昔は夕方6時以降に会議や授業を行うことは当たり前でしたが、ここ数年は朝の時間帯に会議を設定するなど配慮していただいています。

姫岡 職場によっては遅い時間の会議に出席できない女性教員に対して、「何で出席できない、だから女はダメなんだ」と言われることもあると聞きますよね。男性の意識を改革することも必要ですね。あとは、とにかく女性を積極的に採用する意欲を大学全体の方針として示すべきです。

波多野 本学も女性教員の比率は全学的に見ても低い方ではないのですが、私の専門分野である社会科学の分野でも最近では女子学生も増えてきています。その割にまだまだ女性教員が少ないという実態はありますけど、本学としても女性を積極的に採用するための方策が必要ですね。



総務部職員課作成 (2008.5.1 現在)



ひめ おか
姫岡 とし子 (人文社会科学研究科 歴史・人類学専攻 教授)
 男女共同参画推進室室長

姫岡 是非、期待したいです。

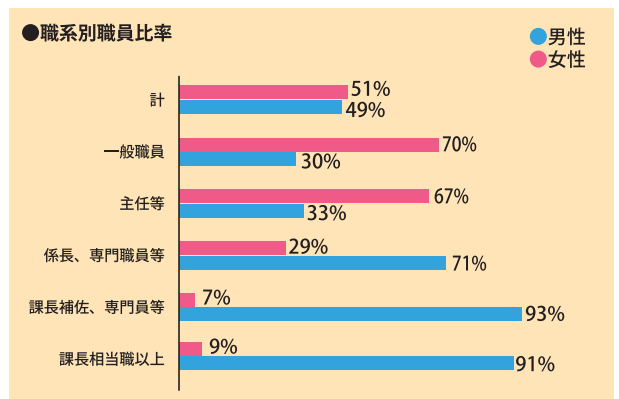
◆女性教職員の役職登用を促進するために

姫岡 本学の役職教員の比率もかなり低いですね。

波多野 経営協議会や教育研究評議会の委員ですが、19年度は2人、今年度は5人ですね。評議員は選挙で選出される者で構成されていますが、学長指名などにより意識的に女性を上位職に任命したり、積極的に登用したりすることも必要ですね。

姫岡 女性は役職者になりたがらないのも事実です。やはり家庭との両立が難しいという意見を聞きます。

銭谷 事務系職員も職責が上がるほど女性が少なくなっていますよね。徐々に増加の傾向にはあるようですが。若手の女性職員から見ると、ロールモデルが少ないのは確かです。頑張っている女性はたくさんいます。幹部候補生を育てる努力も必要ではないでしょうか。





李 昇姫 (人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻 准教授)

姫岡 男性の中には、女性が会議等に参加したり、女性を上司に持つとやりにくいなどという意見はないのでしょうか。

銭谷 そういふことはあまり感じないですね。今の役職者の方々は女性に対する意識は持っていていてと思います。きちんと女性の活躍できる場を作っています。

石原 昔は男女の役割がはっきり分けられていましたが、今の若手職員は全てにおいて平等と言っていいでしょう。

姫岡 能力や意欲はあるけど、家庭との両立や職場の環境的に難しいという意見もありますよね。

石原 女性も、仕事は仕事ですからそこはしっかりとやってほしいですね。逆に男性に対して積極的に家事に取り組んでほしいと思います。

姫岡 確かに女性も「家事があるから」を口実にしてはいけませんね。しかし、男性が、「保育所のお迎えがあるから」と言うと笑顔で送り出してくれる雰囲気がありますが、女性が同じことを言うと「なんで、甘えるな」と疎まれたりしますよね。

◆ 出産、育児、介護に携わる者への支援体制

姫岡 この中にも子育て真っ最中の方がいらっしゃると思いますが、困っていることはありますか？



相山 玲子 (数理物質科学研究科 数学専攻 講師)

相山 困っていることはたくさんありますけど、どのように解決すればよいか分かりません。どうしても女性の方が家事を抱える量が多いのは事実です。そうすると、研究に費やせる時間が割かれてしまいます。

李 家事、育児についてはどうしても女性が責任を担わなくてはならない。男性は職場に理解を求めようという気持ちもあまりないのではないのでしょうか。そんなことを言ったら自分が不利になってしまうとか。男性も女性もそういうことを堂々と伝える雰囲気づくりが必要ですね。

姫岡 事務の方は、育児休業等は取りやすい環境にあるのでしょうか。

石原 現状では男性が育児休業を取ることはまずないですね。私も個人的には、妻が専業主婦のためまかせきりになっています。

銭谷 女性の場合ですと期間はばらばらですけど、まあ、大体1年位ですかね、育児休業をとっています。取りやすい環境だと思います。制度的に代替職員も補充できますし。先生方も代替教員を補充できる制度があればいいと思いますが、先生方の代わりはそう簡単にはいかないでしょうから、せめて教育面は非常勤講師をしっかり手当てしますと言って欲しいですね。

姫岡 他大学では子供を産んだ女性研究者に、研究活動を支援するための助成金を与えたり、育児を行う一定期間を「育児年」として論文執筆数が少なくとも不利にならないような制度を設けているところもありますよね。本学でもそのような環境整備に取り組んでいただきたいですね。



いしはら ゆうじ
石原 祐志 (研究事業部長)



ぜにや りょうこ
銭谷 柳子 (学務部学務課課長補佐)

波多野 研究上の「育児年」というのは、確かに考える余地がありますね。

◆これからの男女共同参画推進室のあり方

姫岡 女性教員や女性役職者の現状についていろいろと意見をいただきましたが、これらの実状を改善していくために、男女共同参画推進室としてどのような活動をしていくことが必要だと思われませんか。

銭谷 即効性を求めるのであれば、教員公募で女性教員の応募者を増やすためにも、まずはHP等を通じて本学の男女共同参画推進活動をアピールしていくことも必要なのではないのでしょうか。

姫岡 確かに男女共同参画推進室の取り組みや保育所があることも知らない学生が多いですし、情報提供ができる体制整備が必要ですね。さらに事業を強力に推進するには、コーディネーターや特任教授を採用し、筑波大学独自の事業の取り組みを行うことにより外部資金を獲得することも必要です。

石原 室員には兼務の教員だけでなく専任の教員も置き、専任のスタッフもいたほうがいいのではないのでしょうか。外部資金も、根っこがないと獲得できません。外部資金の獲得ありきで行動を起こすのでは難しいですね。また、専用の部屋を設けて相談体制の整備を充実させることも必要でしょう。

相山 確かに男女共同参画推進室といっても教職員や学生が気軽に相談できるような部屋がないので、ぜひ設置

してほしいですね。

石原 週に1、2日でもいいから専門家を派遣できればいいですね。

李 ハラスメント相談員と協力して学生にも親しみやすい制度とすることが必要でしょう。

姫岡 気軽に何でも相談できる場となればいいですね。そのためには、やはりHP等での広報活動が重要となってきます。先日行ったアンケート調査の集計、分析結果も公表できますし。また、今年度開催を目標としてきました「男女共同参画推進室開室記念シンポジウム」も講師の方の都合等により実現できませんでしたので、来年度にはぜひ実現させたいですね。これらの活動が、男女共同参画を広める契機となってくれることを希望します。

波多野 本日出されたご意見は、執行部としてもやれることから積極的に進めていきたいと思えます。女性教員や外国人の教員が少ないことはどこの大学でも同じですが、やはり数値目標は重要で、そのもとで大学独自の取り組みで戦略的に増やしていく努力が必要となってきます。

姫岡 短期間で取り組めることと長期にわたり検討していくことをうまく組み合わせながら取り組んでいくことが必要ですね。

本日はありがとうございました。

「女性は二度生きる」・・・男女共同参画事業について思うこと

「女性は二度、生きることができるよ」。これは現在 JICA の総裁をしている緒方貞子先生が、初めて会った私におっしゃった言葉である。もう7年近く前になるが、憧れの先生にお会いできて筑波大学教員の名刺を差し出すと、「家庭は持っているの、お子様はいらっしゃるの?」と矢継ぎ早に質問をされ、緊張しながら「はい」と返事をしたときに、「それはうれしいわ」という言葉に続けて言われたことである。

緒方先生は、主婦業や子育ての経験が社会復帰をした際に大いに役に立つと説明され、それが「女性が二度生きる」という意味だと言われたのである。緒方先生の経歴をみると、途中で第一線を退き家庭にこもったという時期は見当たらないように見えるが、国際基督教大学准教授になられたのは47歳のときであることや、第8代国連難民高等弁務官に就任しジュネーブに着任されたのが63歳になってからのことなどを考えると、比較的「運咲き」だと受け取ることができる。

緒方先生のように華々しい背景と経歴を持っているわけでは決していないが、私も真正正銘、「人生を二度生きた」証人であるかもしれない。大学院修士課程を中退して家庭に入り、子育てが一段落した38歳の春に13年のブランクを乗り越えて、もう一度大学院修士課程に入学した。入学手続きの書類を提出しようとしたら、窓口係から「代理人依頼書はお持ちですか?」と父兄に間違われたこと、なかなか理解できない問題があった「だから、勉強は若いうちにするものだ」と叱られてしょげたこと、学会などで誰かに紹介してもらおう際にならざる職業名が出てきて「○○○の奥さん」と呼ばれたことなど、エピソードには事欠かない。しかし、多くの先生からの厳しくも温かい指導や、若い級友たちからの爽やかな友情のお陰で、大学院の6年間を無事に有意義に過ごすことができた。

博士課程の単位取得退学後、自分で10年と期限をつけて論文を作成し学位を授与されたとき、大先輩の名誉教授の先生方から「申し訳ないが、あなたには常勤職は紹介できません」

と謝られた。それはその世代の先生方にとっては、当然の考え方であろう。年齢が若くても家庭をもつ女性研究者には、現在でも常勤職への道のりは遠い。しかもすでに50歳を越えていた私にチャンスを与えてくれる研究機関などあるはずがなかった。

しかし、新しい意見をもつ教授たちが私にも応募を勧められるようになり、幸いにも筑波大学哲学・思想学系(当時)の公募に応募することができた。もう55歳になっており、しかもこれまでに常勤の経験のない私の採用は、哲学・思想学系の先生たちには一種の「賭け」であったかもしれない。しかし、それを先輩後輩の女性研究者たちが「勇気づけられた」と、とても喜んでくれたことを思い出す。

こんにちの男女共同参画の推進を考えると、私は今、「二度目の人生」は、働き続けたいという意味をもつ女性には、あってはならないと思う。採用の際の性差別の撤廃はいうまでもなく、男女を問わず、専門の学問や技術をもつ若い人が、途中で一度、社会から離れてしまうことのないような制度や方法が、十分に考えられるべきである。

同時に社会から離れて主婦業や子育てに専念することが、マイナスになるというつもりはない。止むを得ない事情で家庭に入るようになった場合、その経験がふたたび社会にでたときに、大いに役立つものになるという事例は、実際に多いことであろう。しかし、現実には、再就職組は待遇や仕事上のさまざまな面で不利な扱いを受けることは、周知の事実である。特に大学や研究機関での男女共同参画を推進するためには、男性にも女性にも、再就職の面で不利にならない制度を作り上げることが求められる。

「人生を二度生きる」はめになろうとも、一度のまっすぐな道を歩もうとも、男女それぞれが社会の制度や慣習によって、社会参加の意思を阻害されることのないように「男女共同参画」をさらに推進していきたいと願うものである。



塩尻和子 [特任教授]

昭和42年 大阪外国語大学アラビア語学科卒業
 昭和47年 京都大学大学院修士課程中退
 昭和60年 東京大学大学院修士課程修了
 平成元年 同大学大学院博士課程単位取得退学
 平成11年9月 筑波大学助教授(哲学・思想学系)
 平成17年4月 筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
 平成19年4月 北アフリカ研究センター長
 平成20年4月 筑波大学特任教授
 専攻はイスラーム思想、比較宗教学、中東地域事情

【最近の主な著書】

『イスラームの人間観・世界観―宗教思想の深淵へ―』
 筑波大学出版会、2008年2月
 『イスラームを学ぼう 実りある宗教間対話のために』
 秋山書店、2007年6月

など

国際生物学オリンピック (IBO)

7月につくばで開催



2009年が明け、いよいよ第20回国際生物学オリンピック (INTERNATIONAL BIOLOGY OLYMPIAD : IBO2009つくば) の開催年となりました。

沼田治国際生物学オリンピック2009組織委員会実行委員長 (生命環境科学研究科) の下、IBO2009つくば実行委員会事務局では大会準備が佳境にさしかかっています。IBO2009つくばは、日本で初めて開催される科学オリンピックです。本稿では、昨年本学で行われた日本代表選考会を兼ねた「生物チャレンジ2008 第2次試験」の様子を含め、国際生物学オリンピックについて紹介します。

■IBOとは

国際生物学オリンピック (IBO) は、生物学の問題を解く能力を高校生以下を対象として競う国際大会です。本年のつくば大会は第20回の記念大会となります。世界各国の生物教育の振興を目的とするため、スポーツのオリンピックとは「毎年開催される」、「同一選手は2回までしか参加できない」、「金メダルは1つではなく、上位10%程度に与えられる」等が異なります。

各国4人までが出場でき、日本は4年前の初参加以来、着実に成績を伸ばし、昨年インド大会では銀メダル3個、銅メダル1個を受賞しましたが、金メダルの獲得はまだありません。

■IBO2009つくば 参加までの道のり

日本代表は、全国生物学コンテスト「生物チャレンジ

2008」に参加した2,482人の応募者の中から、3回にわたる選考試験を経て選ばれました。

筑波大学では、第2次試験を昨年8月に3泊4日の合宿形式で行い、15人が合格し、第3次試験へと進みました。

■IBO2009つくば

IBO2009つくばは筑波大学を主会場に7月12日 (日) ~ 19日 (日) の会期で行われます。参加人数は60カ国から選手240人と引率180人を予想しています。大会は大きく分けて、実験と理論の試験、試験問題の検討や受賞者決定の会議、式典、交流イベント (小旅行およびつくばナイト) の4つから構成されます。試験およびつくばナイトは筑波大学で、会議および式典はエポカルつくばを会場に行われ、小旅行はつくばサイエンスツアーと日光見学が予定されています。



第2次試験会場の様子



第2次試験合格者

■試験—公平、快適な試験空間

試験は理論試験と実験試験からなり、筑波大学の第2エリアB棟、D棟、H棟を会場として行われます。また昼食時には第2エリア食堂が使用されますが、いずれもリニューアルが完了し、快適な環境を提供することができます。特に実験試験に関しては、実験台や実験イスを新品と入れ替え国際コンテストの会場にふさわしい環境にしました。また、使用機器間の不公平をなくし、同一条件下で実験が行えるよう同一モデルかつ新品の実験器具を調達しています。

■式典—開会式には秋篠宮殿下がご臨席

IBO2009の名誉総裁として秋篠宮文仁殿下が就任されており、13日の開会式とその後のウェルカムパーティにご臨席される予定です。また、行政・財界からもVIPの参加が予測されるため、高い格式、入念な計画、および厚い警備体制が求められます。一方、18日の閉会式では選手主体のよりカジュアルな進行を想定していますが、オリンピックの閉幕にふさわしい式典にしたいと考えています。

■つくばナイト—テーマは日本の夏祭り

全試験日程終了後の16日夕方には、中央図書館前から第2・第3エリア食堂付近を会場に、「つくばナイト」と題した交流イベントを行います。やぐらを囲んでの盆踊り、神輿や山車、焼きそばやたこ焼きの屋台など「祭り」で、選手、引率者、運営スタッフ一体となり日本の夏の夜を満喫してもらいたいと考えています。

IBO2009つくばは国際的なビッグイベントであり、大会の成功のためには筑波大学が一丸となって取り組む必要があります。上記の試験、式典、イベントの他、広報や国際交流関係などで多くの学生・教職員の協力をお願いいたします。

【ホームページ】http://ibo2009.org/index_j.html



カナダ大会の様子

●第20回国際生物学オリンピック スケジュール

	選手	リーダー・オブザーバー
7/12(日)	代表団到着&登録	
	オリエンテーション(二宮ハウス)	オリエンテーション(エポカルつくば)
7/13(月)	開会式(エポカルつくば)	
	歓迎レセプション	
	実験試験会場視察(筑波大学)	実験問題の討議・翻訳(エポカルつくば)
7/14(火)	実験試験(筑波大学)	エクスカージョン(日光)
7/15(水)	エクスカージョン (つくばサイエンスツアー、 茨城県自然博物館、つくば市内)	理論問題の討議・翻訳 (エポカルつくば)
7/16(木)	理論試験(筑波大学)	エクスカージョン (つくばサイエンスツアー、つくば市内)
	つくばナイト(筑波大学)	
7/17(金)	エクスカージョン(日光)	理論試験の結果検討
		コーディネーター会議
		コンテスト結果およびメダル授与の承認(エポカルつくば)
7/18(土)	エクスカージョン (つくばサイエンスツアー、つくば市内)	講演会・表彰式・閉会式(エポカルつくば)
		フェアウェルパーティー(エポカルつくば)
		代表団出発
7/19(日)	代表団出発	

実行委員会を支える本学関係者



沼田 治 [生命環境科学研究科・教授]
国際生物学オリンピック2009実行委員会
委員長



岩本浩二 [企画室・講師]
国際生物学オリンピック2009実行委員会
事務局長



鶴見由紀子 [生命環境科学等支援室・事務補佐員]
国際生物学オリンピック2009実行委員会
事務局



掛札 綾 [生命環境科学等支援室・事務補佐員]
国際生物学オリンピック2009実行委員会
事務局



留学生センター

「留学生センター」は1984(昭和59)年に外国人留学生を対象とした日本語教育の予備教育機関として、全国に先駆けて「留学生教育センター」の名で設置されました。その後、1991(平成3)年の組織改編で名称を現在の「留学生センター」と改称しました。同センターは渡邊和雄センター長のもと▽日本語教育部門(専任教員10人、非常勤講師17人)▽相談指導部門(専任教員2人)▽短期留学・交流部門(同3人)の3つの部門と、それらをサポートする国際部留学生交流課(11人・サンフランシスコ連絡事務所出向1人含む、非常勤5人)の事務部門から構成されており、本学の外国人留学生に、日本での生活や勉学が安心して行えるよう、きめ細やかなサービスを提供しています。

■センターの3つの役割

本学の留学生は95カ国・地域から1,481人(2008.12.1現在)。その数は、国・地域・人数いずれも年々増加傾向にあります。文化も違えば、言語も様々です。そんな中で同センターの主な3つの役割を紹介します。

●日本語コースの開設

1つめは、留学生が日常生活や勉学に困らないように、各レベルに合わせた日本語コースを開いています。同コースには、渡日直後の国費留学生を対象とした「日本語予備教育コース」と本学留学生等を対象とした各学期10週間の「日本語補講コース」があります。日本語補講コースの募集は学期始めの4、9、12月で、各コースとも専任教員のほか非常勤講師が熱心に指導にあたっています。今年度は各学期とも350人を上回る受講希望者があり、留学生の日本語習得に対する関心の高さがうかがえました。

●修学、生活のサポート

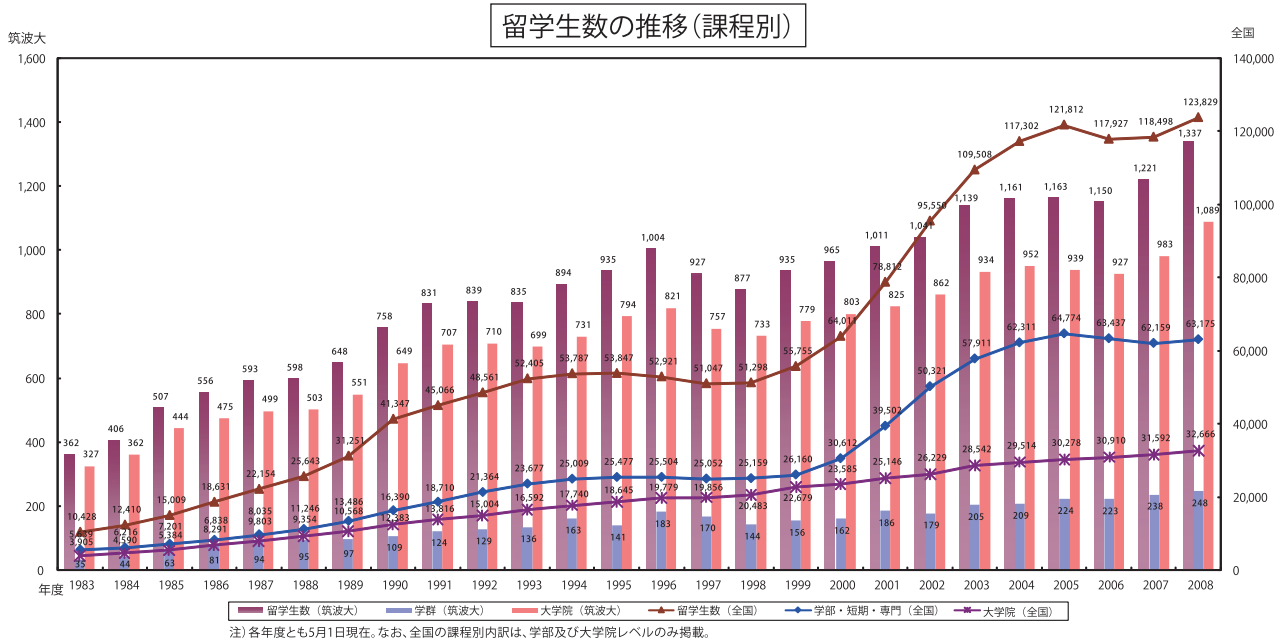
2つめは、住環境や奨学金など、様々な問題に直面する留学生たちの悩みや相談に対応しています。1日に多くの留学生がセンターを訪れ、教職員が一つひとつ分かりやすく丁寧に対応に当たっています。

また、留学生1人につき留学生指導教員から推薦を受けた大学院生によるチューター(個人指導)制度があり



職員に相談する留学生

パスで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。



(学群生は2年間、大学院生レベルは1年間)、つくばに来て早い時期に安心して生活が送れるように、親身になって世話をするサポート体制を取りつつ、日本人学生との交流促進も図っています。チューターのためのオリエンテーションも行っています。

●日本人学生の海外留学支援

3つめは、日本人学生の海外留学をサポートしています。本学は42カ国、147校と交換留学協定を結んでいます。(2008.12.1現在)。

日本人学生に向けた年3回の海外留学説明会や、TOEFLセミナーなどを実施し、留学の魅力や意義、心構えなどを伝えています。

しかし、本学生の海外への留学人数は過去3年間を見ても、年にわずか150人程度です。海外に視野を広げてもらうためにも、今年度の新たな試みとして、夏休み期間を利用した短期語学研修を、本学交換留学協定校であるオーストラリアのモナシュ大学とクイーンズランド大学で行い、約40人の学生が参加しました。

参加人数を拡大し、“留学っていいな”と実感してもらえよう、今後も実施していく予定です。

■『留学生30万人計画』に向けた取り組み

文部科学省は“日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として”、2020年を目途に国際化拠点となる大学30校を選定し、重点的に育成する『留学生30万人計画』を発表しています。

本学の場合、留学生数は在学生における比率でみると

全国トップレベルですが、現在の留学生数の2倍以上を受け入れることになり、中核となる同センターを中心に、全学挙げて増員時の環境整備や対応が重要課題となります。2020年の数値目標として、受け入れ留学生3,500人、派遣留学生500人程度、外国人教員の10%増などが検討されています。

渡邊センター長は、2020年に向けた取り組みとして「まずは12拠点に選ばれることが先決です。特色ある教育プログラムの実施や日本語・英語教育の充実はもちろん、受け入れ体制や受け入れ後の地域や企業との交流支援も含めた進路支援体制の充実、卒業後の社会の受け入れ推進や帰国後のフォローアップ、全学通しての人材や組織のパイプラインづくり」などを挙げています。

「留学生が増え国際化が進む中、よりきめ細やかなサービスで全学一体となった相談ネットワークを持つ支援体制が必要です。留学生に向けたQ&A改訂や病院にもボランティアをつけるなど、地域から見ても丁寧な対応が求められてくる。日本語は、世界でも相対的に話す人口が多い語学です。留学生は日本の社会に入っていけるよう日本文化への理解が必要。将来的には学外でも日本語教育の研修化を進められるように、もっと日本語教育のあり方を見直していきたい。全学で留学生を盛り上げて支援していただくように、ぜひとも協力してほしい」と話しています。



渡邊和雄センター長

「国内初の自閉症を専門とするモデル校」

筑波大学附属久里浜特



国立大学法人化に伴い 本学の附属学校として設置

眼下に浦賀水道を見渡し、晴れた日には、房総半島も視界に入る素晴らしいロケーションの中、JR横須賀線「久里浜駅」・「京急久里浜駅」からバスで約15分のところに学校はあります。

同校は、昭和48年(1973年)に国立特殊教育総合研究所が行う実際研究に協力する目的のため、文部省が直轄とする唯一の国立学校として重度・重複障害児を対象に教育を行う「久里浜養護学校」として設立されました。

その後、国立大学等の法人化に伴い、平成16年(2004年)に自閉症を専門とするモデル校として、筑波大学附属久里浜養護学校が誕生し、平成18年(2006年)に公布された「学校教育法等の一部を改正する法律」の施行を受け、平成19年(2007年)に現在の校名である、筑波大学附属久里浜特別支援学校となりました。

現在、幼稚部9人、小学部41人、計50人の幼児児童がおり、教職員合わせて46人が教育、研究に携わっています。その内30人の教諭は、13の都道府県から23人が交流人事により、本校に来ています。

開かれた学校

附属久里浜特別支援学校は、「自閉症教育推進指導者研修」の開催、年間を通して筑波大学及び国立特別支援教育総合研究所の研修生等の受入れ、日本各地や海外からの見学者の受入れを通して情報提供等を行っています。

また、早期教育相談室を設置しており、相談にこられた障害のある子ども達に教育的な対応を行うとともに、保護者の方やご家族はもちろん、地域の幼稚園、保育所、小学校などからも障害に関する相談を受け、指導、助言を行っています。

文部科学省の研究開発学校の指定

平成16年～18年度(2004年～2006年)の期間、文部科学省の研究開発学校の指定を受け「自閉症児のための教育課程の研究開発」の研究に取り組んできました。その研究成果の主なものとして、①「養護学校における知的障害を伴う自閉症児を教育する場合の自立活動を開発・提案」、②自閉症児のための教育課程編成のための3つのポイントの提案、③自閉症児の指導に効果的な指導内容・方法、教材・教具とその活用方法等を一覧にまとめた「課題別指導セット〈社会性・適応性編〉」の開発が上げられます。

更なる発展へ

これら3年間の成果を踏まえ、引き続き、平成19年(2007年)からの3年間、研究開発学校として指定され、今年度も、「幼稚部、小学部一貫した教育課程」と「家庭支援と地域との連携の在り方」をテーマに、社会生活で自立できることを目指し、一人ひとりの障害の程度に合わせ、何回も繰り返し、時間をかけて、教育、指導を行っています。また、家庭や地域の方とも協力し、一歩ずつ子ども達がステップアップすることを心がけています。これらの教育、研究の成果は、特別支援学校の新しい学習指導要領の中にも組み込まれる予定です。

西川公司校長は、「教育、研究について、広く発信することが本校に与えられた重要な任務です。毎年、東京で『自閉症教育実践研究協議会』を開催していますが、今後は、全国の特別支援学校の関係者との交流を持つことも計画しています。また、最近増えている、一般学校に在籍する障害児に対しても、その受け持ちをされている先生方に、より良い指導方法について伝えていければ。」と話しています。



西川公司校長

れもそれぞれの分野で我が国の教育をリードしています。

され、幼稚部、小学部を置く、筑波大学附属久里浜特別支援学校を紹介します。

別支援学校



◆附属久里浜特別支援学校の日々

9時の授業・教育時間開始を前に、スクールバスや自家用車等で登校します。また、6人は寄宿舎で生活をしています。

幼稚部は、4歳児以下のクラスと5歳児以上のクラス、小学部は各学年でクラスが編成されています。それぞれのクラスで2人の子どもに対して約1人の割合で教諭が教育に当たっています。

9時から生活指導（着替え、排せつ、整理・整頓等）が始まり、各クラスのカリキュラムに則り、子ども達が自立して日常生活を送ることが出来ることを目標に、集団での対応や個別課題の指導を繰り返し行っています。しかし、子ども達の情緒も不安定であったり、コミュニケーションが苦手な子どもも多いため、その指導は忍耐と体力が必要です。そのため、子ども達が分かって動ける環境を整えたり、教諭が写真や絵を使った色々なカードを作成し、それを張り出し1日の予定を理解させたり、カードを使用し、先生と子ども達がコミュニケーションを取ったりしています。また、社会生活に慣れるため、校外に買い物に出かけ、お金の使い方や計算を勉強したりもします。

お昼になると、幼稚部・小学部の子ども達と先生全員で給食を食べますが、その際にも準備、手洗い、片づけ、歯磨き等ひとつひとつ指導し自立できるよう配慮しています。

午後は、幼稚部は帰りの会を行い、13時15分に下校になりますが、小学部はクラスによっては、午後のカリキュラムをこなし、14時45分に下校となります。



コミュニケーションカード

◆自閉症とは？

自閉症は、①社会性の障害、②コミュニケーションの障害、③想像力の障害（こだわり等）が基本的な障害特性とされています。

①は、同じぐらいの年の友達と仲間関係を作ることが苦手で、一人遊びを好むことが多い、相手と視線を合わせて会話することが苦手である、乗り物に乗ることを好むが、「電車の中では大きな声で話したり独り言を言ったりしない」とか、スーパーマーケット等で欲しい物を手に入れるには「レジに並んで待つ」などのマナーやルールを守ったりすることが求められるが、そのことが理解できず混乱したり、童歌の「だるまん だるまん にらめっこしましょ・・・」などに合わせて動いたり、相手を見てまねしたりすることが難しい、人の表情やしぐさなどから、その人の気持ちを感じとったり、その場の雰囲気を感じたりすることが難しく、人の感情を理解しにくい等があげられます。

②は、自分から人とコミュニケーションをとることが難しく、人とのやりとりが成立しにくい、言葉の発達に遅れのあることが多い、相手が言ったことをオウム返りする、コマースのフレーズなどを繰り返し言う、「お帰り」「ただいま」のように、その場やタイミングにあった応答をすることが苦手である等があげられます。

③は、積み木を車に見立てて遊んだり、ままごとをしたりするなどのごっこ遊びをするのが難しい、文字や数字、アルファベット、特定のマークやキャラクターなどに強い偏った関心を示す、登下校の時、決まった道順でないと気がすまない、予定外の行動や環境の変化を極端に嫌がる、手をひらひらさせたり、体を前後に動かしたりする、等があげられます。

このような三つ組の障害以外にも、特定の音や人の泣き声に敏感に反応したり、熱さや痛さに鈍感であったりする感覚知覚の過敏性、鈍感性、特定の能力が素晴らしく長けていたり、その逆に極端に劣っていたりするなどの状況が見られることもあります。



幼稚部（遊び活動）

第2回 ダンス部 華麗な舞い 観衆を魅了



伝えたいテーマと音楽に沿った、様々な動きで自分たちを表現し、見ている人を魅了する創作ダンス。ダンス部(寺山由美顧問)は、前身の東京教育大時代から数えて創部60年の伝統を誇るサークルだ。現在の部員は院生を含む21人(男子2人、女子19人)。3年生が運営の中心となり、5、8、9月の競技会や3月の自主公演に向けてダンスを創作、稽古に汗を流している。

「基本的に全部員がレギュラーです。初心者にも、初心者ならではの表現がある。個々の特徴やクセを見てイメージし、適材適所で構成します」と鈴木絢弓部長(体専3年)は、7人の3年生で表現方法を模索し部員の

個性を最大限に生かした振り付けを考えている。

毎年8月の“ダンスの甲子園”「全日本高校・大学ダンスフェスティバル」の創作コンクール部門で今年、奨励賞に輝いた。2001～2004、2006～2007には第1位に相当する文部科学大臣賞の連覇を遂げるなど、同部への評価は高く、全国から注目を集めている常勝集団だ。

しかし、鈴木部長は「結果がでたらそれはうれしいことですが、決して大会連覇や受賞を目標に踊るわけではありません。私たちの思い描く世界を創作して、挑戦できることが喜びで、それで何かを感じてもらえることが一番うれしい」と創作ダンスへの思いは熱い。

このコーナーは、前身の師範学校から135年以上の歴史を有し、スポーツ分野において、オリンピックの金メダリストを始めとし、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会を紹介します。

主な競技成績及び今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【筑波大学体育会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

剣道部 記録

■第27回全日本女子学生剣道大会

優勝(5年ぶり6度目)

ハンドボール部 記録

■高松宮記念杯第51回全日本学生ハンドボール選手権大会

【男子】準優勝

【女子】優勝(3年連続11回目)

■全日本総合選手権大会

【女子】3位

体操部 記録

■第8回全日本学生エアロビク選手権大会

【男子シングル】準優勝:諏訪部和也

【男子団体】10位(古屋、諏訪部、吉永、江塚)

蹴球部 記録

■全日本大学サッカー選手権大会

準優勝



時にハードに、時には華麗に、高く跳んだり、走ったり。さまざまな動きに対応できるように、日々の筋力・体力づくりは怠らない。同部に代々受け継がれている“筑波アップ”というストレッチを準備運動に、練習が始まる。練習は水・日曜を除く毎日。時間は主に6限後の2時間だが、個々が納得するまで、稽古は続く。

「ダンス大会は、うまければ勝つというものではない。今までやったことのない表現を取り入れ、見る側がどのような評価をしてくれるのか、常に新しいものに挑戦する意気込みはどこにも負けない」と向上心を口にする鈴木部長。

最近では他の体育会の大会でハーフタイムなどに行う“応援ダンス”のオファーも増えてきているが、「私たちはチアと違い、応援よりもあくまで表現活動が第一なんです」とチアリーディングとは一線を画す。

チームワークに加え、衣装や照明、音響も全部がダンス表現に必要な要素。他校の公演や各種演奏会などにも足を運び、舞台表現を学ぶ。衣装はダンスのイメージに合わせ、手作りになることも。全てが手作りだが

からこそ、晴れの舞台に立つ喜びは大きい。

昨年11月に行われた「国民文化祭いばらき2008」で、「洋舞フェスティバル」に全国のダンス団体と共に出演。本学名誉教授で舞踊作家の若松美黄先生の振り付けで「ブログな仲間」を披露した。この体験は「肉体的に厳しい面もあるけれど、作品発表に年齢制限はないのだということを知らされた感じ」と鈴木部長。部員たちは精神と技術の両面で多くを学んだ。

現在は、年間活動の集大成である3月の自主公演に向け、稽古中。「筑波大のダンス公演は、毎回違ったいろんな要素が見られて面白いという集団でありたい」という。他校と交流し、互いに刺激し合いながら創作したコラボレーション作品や、過去の作品も取り入れた盛りだくさんの公演になるという。「ぜひとも期待して下さい」と自信あふれる。

同公演は3月26日、つくばエクスプレス・北千住駅下車徒歩1分のシアター 1010(東京・足立区)で行われる。



揃いの衣装でピースサインするダンス部員

第2回 落語研究会

“笑う門には福来たる” ～笑いで人を幸せに～



扇子の使い方にセンスあり(珍々亭ぶらら)



大喜利(学園祭)

“寿限無、寿限無、五劫の擦り切れ、海砂利水魚の水行末、雲来末、風来末・・・”

落語の前座ネタで有名な「寿限無」。「私たち落研会員は全員が言えますよ」と、久保田洸平会長(社会2年)は高座さながらテンポ良く披露する。

35年の歴史を持つ「落語研究会」(石塚修顧問)には、現在24人(男子20人、女子4人)の落語やお笑い好きが集う。10月の雙峰祭をメインに、毎月の落語会・寄席が発表する場だ。

同会の主な亭号は、「珍々亭」、「筑波亭」、「香車亭」、「てなもんや」、「返還亭」、「火災亭」など。新入会員はこのうちの好きな亭号に「弟子入り」し、先輩たちにユニークな高座名をつけてもらうのが慣例となっている。命名のためのミーティングは、次々と出てくる候補案で黒板が埋め尽くされるという。「香車亭梅春」、「火災亭しける」、「珍々亭太姿」、「返還亭吉尻」、「てなもんやぶた満」など、ネーミングにもユーモアのセンスがあふれている。



番組表はこんな感じ

落語は、先輩からの指導やプロの落語家のCDやDVDを見て研究する。手ぬぐいや扇子など小道具の効果的な使い方や表情、話しの間の取り方、発声など何度も繰り返し練習してコツをつかんでいく。中には自分で書いたオリジナル作品で挑む者もいる。

高座の2～3週間前になると、開学記念館で会員を前に「ネタ見せ」をし、あれこれ批評し合う。真剣に笑いを追求する仲間だからこそ、笑いに致命的な「面白くない」との厳しい意見も。「演者は一方的に話すのではなく、いかに客目線に立てるかがお客さんの気持ちを掴むカギ。それが分かってくると、高座だけでなく大学授業の発表やプレゼンテーションにも生かされてくるはず」と、会員の花上賢さん(比文2年)は言う。

また、「人前で話す事や、着付けや着物の所作なども身に付くので、ぜひとも入部を」と、久保田会長は笑い以外の要素もアピール。歴代会員には「筑波亭メルシー」の名で活躍した、フランスの留学生も在籍した。

地域の祭りや小学校、敬老会、病院や福祉施設への“出張余興”依頼も数多い。花上さんは「地方は笑いを求める需要が多いのではないかな。みんな私たちが来るのを楽しみに待っていてくれます。とても好意的に迎えてくれてうれしいですよ。笑いには人を元気にするパワーがありますからね」と満足気だ。

披露するのは落語以外にも、大喜利や漫才、コントなど笑いのジャンルは幅広く、同会はちびっ子からお年寄りまで広い層から人気を集めている。今年度の雙峰祭では、3日間で約1,000人(同会発表)の動員が



迫真の演技(香車亭兵衛助)



なぞかけの天才!(火災亭しける、右から3人目)

あり、終日満員御礼、好評を博した。「大喜利では客席から“お題”を頂戴し、即興で答えます。お客さんと一体感が生まれました。笑いは人を幸せにするんです」久保田会長は満足そうに笑顔を見せる。

また、他校との交流も積極的で、大阪大学落語研究部とは年2回、互いを行き来しジョイント落語会を開いている。「内輪受けでは進歩がない。笑いの難しさを実感します」と刺激を受け、腕を磨く。

同会からプロの落語家も誕生している。立川志の輔に弟子入りの、立川志のぼんさんだ。今でも時折、同会の落語会に激励に来てくれる頼れる先輩だ。

同会は各大会での評価も高く、受賞歴も数多い。「全日本学生大喜利選手権」(08年5月)では、珍々亭侯が

大賞を受賞。毎年2月に岐阜県で行われている「全国学生落語選手権大会」では前回、香車亭梅春(羽鳥広平さん、比文4年)が大賞に輝き、大会連覇の期待がかかる。

花上さんは「我々個性的な集団の“悪あがき”を見て下さい」と意気込んでいる。

「落研は、ノリとツッコミが基本。いつでも、どんな時でも笑いを考えている」という花上さんに、いきなり「筑波大学とかけて」と、なぞかけすると、即座に答えが返ってきた。

「筑波大学とかけて、女主人公と解く。その心は・・・どちらも“ヒロイ(広い)ン”です」----お見事!!

このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、各種発表会、またボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

筑波能・狂言研究会

■筑波能・狂言研究会特別公演	3/19	つくばカピオホール
----------------	------	-----------

つくばフォーク村

■熱中唱	2/4	大学会館ホール
■ざわコン宣伝ライブ	2/18	第2・第3学前広場
■ざわコンライブ	2/21	1B308

フォルクローレサークル南/フォルクローレ愛好会

■合同コンサート	2/1	ノバホール
----------	-----	-------

ブロックフローテ同好会

■定期演奏会	2/8	筑波大学春日講堂
--------	-----	----------

筑波大学応援団WINS

■バレンタインステージ	2/9	第2・第3学前広場 ①11:25~ ②12:15~
-------------	-----	---------------------------

天皇皇后両陛下及びスペイン国王王妃両陛下が御来学



11月12日(水)、天皇皇后両陛下及びスペイン国王王妃両陛下が、本学に御来学されました。

天皇皇后両陛下の御案内で、スペイン国王王妃両陛下が本学を訪れたものです。国王王妃両陛下は、岩崎洋一学長から筑波大学の概要の説明をお受けになられ、山海嘉之教授(システム情報工学研究科)によるロボットスーツ「HAL」のデモンストレーションを御覧になりました。その後、会場を「スペイン語圏からの留学生等との御懇談会」に移し、スペイン語を交えた会話が弾みました。

天皇皇后両陛下とスペイン国王王妃両陛下は、御視察会場周辺や中央図書館前広場で、2,000人を超える学生や教職員から大きな拍手での歓迎を受けられました。



受賞



小澤 廣恭技術専門職員
[医学系技術室]

■小澤廣恭技術専門職員(医学系技術室)が平成20年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞

小澤廣恭技術専門職員(医学系技術室)が11月28日に平成20年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞し、文部科学大臣から表彰されました。

この表彰は、国立、公立及び私立の大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労のあった者について、その功労を讃えるものであり、小澤技術専門職員の長年にわたる動物実験、病理標本作製及び解剖補助業務に対して評価されたものです。



森 英顕氏
[芸術専攻]

■柴田良貴教授指導の森英顕氏が第23回国民文化祭いばらき2008美術展において文部科学大臣賞(最高賞)を受賞

柴田良貴教授(人間総合科学研究科、芸術専攻)指導の人間総合科学研究科博士課程前期2年森英顕氏(芸術専攻)が、11月1～9日に開催された第23回国民文化祭いばらき2008美術展において文部科学大臣賞を受賞しました。木彫作品「影見」に対するもので、彫刻部門での最高賞でした。国民文化祭は国内最大の文化・芸術の祭典であり、一般公募により出品された文芸や美術作品の展示などの各種イベントが同日程で開催されました。



受賞作「影見」

来訪者 ＜海外＞

11月5日(水)
副学長表敬



来訪者：ペルー
国立ラ・モリーナ農業大学長一行
目的：ペルーと日本の学術交流の発展、特に日本の大学等との学術交流協定の可能性を含め、吉武博通副学長と意見交換

11月6日(木)
学長表敬



来訪者：アフガニスタン
アフガニスタン下院議員
モハンマド・ヌール・アクバリ氏
目的：本学で開催する「国際農学ESDシンポジウム(AgESD)」での、アフガニスタン農業事業等に関する特別講演等

11月17日(月)
学長表敬・協定調印式



来訪者：オランダ王国
トウェンテ大学長一行
目的：本学サイバニクス関連分野に係る組織との教育、研究に関する国際交流協定書の締結等



「羽ばたくOB&OG」2回目は、在学中は大学新聞編集員、そして現在は産経新聞社の政治部長として活躍の乾正人さん(比較文化学類・61年卒)は、後輩へのメッセージや、新聞の役割などについてお話を伺いました。

鈍
感
力

いぬい まさと
乾 正人さん
産経新聞社 政治部長兼論説委員

一まず、本学入学の動機について、お聞かせ下さい

当時まだ出来たての筑波大学に魅力を感じ、「フロンティア・スピリッツ」がどんなものか興味を持ちました。それに、中国語で受験ができたことです。高校時代、趣味で中国語を習い、自分の中国語レベルを確かめる腕試しの意味がありました。

一大学新聞に籍を置かれていたとお聞きしていますが、当時の思い出をお聞かせ下さい

1年次のだいぶ経ったころ、藤野好太郎先生がマスメディア論の授業で、新聞に興味ある学生はやってみないかと呼びかけて下さり、それまでぶらぶらしていたので、ちょっと新聞の真似ごとでもしてみようかと。

ちょうど学園祭などで大学側と学生の一部がもめていた時期で、筑波大学や新聞はどうあるべきか、かなり青臭い議論もしましたね。

3年次になってからは、当時の広報室長で元産経新聞編集局長である青木彰先生の、マスコミ志望学生を集めて勉強する“青木塾”という私塾に入れてもらい、毎週、並木の先生の公務員宿舎で作文を書いたり、人生講話を聞き刺激を受けました。

激動と言うと大げさですが、筑波の揺籃期の中でも特に激しく動いていた時代だったから、書く題材には事欠きませんでしたね。

しかし何を書いたかよりも、学園祭の論議と在学中に藤野先生がお亡くなりになられたことが、特に印象に残っています。

一大学での出会いが進路を決定づけたのですね

個性的な先生も数多く、非常に楽しかったです。当時の仲間たちも、この業界に結構います。今でも年1回の“青木塾”総会は続いていて、仲間と先生のお墓参りにも行きます。当時は思いもしなかった人とのつながりが、今では財産になっています。藤野先生、青木先生ともお亡くなりになられていますが、やはり両先生との出会いがなければ、新聞の世界には入らなかったかもしれませんね。

一政治部長の仕事はどのような内容なのですか

政治系の記事を統括しチェックすること、政治家や官庁との折衝窓口、政治部員の指揮・統括などが主な仕事です。政治部長として直接政治家を取材することもあります。就業時間は年中無休に近いかな(笑)。

乾さんの一日 -水曜-

5:00	起床
5:50	ラジオ局入り ラジオ生放送レギュラー出演
7:25	帰宅
10:00	出社
10:30	会議 夕刊チェック
13:00	昼休み
14:00	会議 朝刊打ち合わせなど
18:30	政治家・官僚などと会食 外部との会議
22:00	社に戻り 朝刊チェック
0:15	帰宅
1:30	就寝

政治部長という職は、一見格好良いですが、気苦労も多いんです。常に政治の流れを読み違えないように気をつけていないといけません。解散時はいつか、選挙になれば、自民党・民主党いずれが勝つのかということの間違えずに把握しておかねばならない。

政治はいろんな面があり、言わば総合芸術的なところがあり面白いです。政治が全てとは言わないけれど、かなりの部分で世の中を動かしている。だから、その流れを読み違えずきちんと報道したいと思っています。

おかげさまで、手前味噌ですが産経新聞の政治報道は、他に先駆けた報道が多いとの評判を得ています。

—総理大臣と接する機会も多いと思いますが

政治部長として公式に会う時は通り一遍の話しかしません。若い時から付き合っている人が総理になったら別なのでしょうか。政治部記者で一番面白い時期は、首相官邸や各政党担当として夜討ち朝駆けしている時です。間近で政治が動いていると実感しますから。部長は会社にいる時間が長いから、現場のほうが面白いですね。

—新聞記者としての姿勢について、考えをお聞かせ下さい

大学新聞で一度、ある新聞の女性論説委員をインタビューしたことがあり、発行前に書いた記事をチェックしてもらったところ、私がまとめたものとは全く違うまとめ方で戻ってきました。この経験から、自分の独りよがりなまとめ方をしてはいけないということ学びました。ニュートラルに事実関係を押さえるのがまずは第一なのだ。今に生かされているかどうかは第三者の立場の人が判断することですが。

メディアは自分の考えを押し付けることなく、事実関係を提起するというのが大事ですね。

—今後の抱負をお聞かせ下さい

なるべく人の琴線に触れるような記事を書きたいという欲求は常に持っていますが、未だに達成できていないので忸怩たる思いです。

—本学の学生へメッセージをお願い致します

学生には新聞を読んでもらいたいです。インターネットもいいけれど、検索次第で好きなニュースに限定され、情報が偏る傾向にある。新聞はオールドメディアだけれど、一通りの情報は揃っている。しかも安価で。それを大学生が利用しない手はないですよ。就職のため

に日経新聞を読むのも良いけれど、産経など一般紙を読み比べて、ものの考え方は各紙これだけ違うと知るだけでも、立派な社会勉強になります。偏ったことはよく知っているが、大麻を吸ったり麻薬をやったら捕まるとか、常識があまりにも欠けている若者もいますね。

そして自分がエリートだと思ってほしい。ビッグになろうという“野心”を持ってほしいです。平凡に生きるのも良いけれど、せっかく難しい試験を突破したのだから、もう少し野望や野心、ギラギラしたものを持ってほしいですね。そのためには基礎知識が必要。新聞は大学図書館で無料で読めるのだし、ぜひとも各紙見比べてほしいです。

—筑波大学に対してはいかがですか

大学には今、プレゼンテーション力が求められています。筑波大学も、発信する情報を地域密着型か全国規模か精査して、もっと積極的に派手にPRをしてもらいたいですね。企業とタイアップするもよし、東京で記者発表するなどして。そうすれば自ずと筑波ブランドができてくるはずですよ。

—座右の銘をお聞かせ下さい

“鈍感力”です。作家の渡辺淳一先生が言うように鈍感でないと、厳しい時代は生き残れないということです。バブルみたいな輝いた時代はこの先ないでしょうから、これからは鋭敏であるほど、マイナス思考にならざるを得ない。他人は悪口を言うものだとか割り切って、たとえ言われても、深く考えずに鈍感でいるほうが、世の中楽しいんじゃないかな。新聞だってそうです。毎日トクダネを書けるわけがないのだから、たまに書けることを喜ぶ。部下には、くよくよしないで次のチャンスを生かすようにと指導しています。

失敗もたくさんありましたが、“鈍感力”があるからまあなんとかやっています。要するにイヤなことは覚えていないことが一番ですよ。



プロフィール

昭和37年神戸市生まれ
昭和61年3月、筑波大学比較文化学類卒、同年産経新聞社入社
新潟支局、整理部を経て平成元年から政治部。
首相官邸、自民党担当などを経て平成19年3月より現職。
ニッポン放送「上柳昌彦のお早う Good Day!」コメンテーター。
筑波大学非常勤講師。

リレー エッセイ

数理物質科学研究科
電子・物理工学専攻
教授

喜多 英治さん



若い頃に興味を持っていたオーディオの趣味を再開しました。音に関しては洋楽からカラオケ、落語(?)と幅広く楽しんでいます。オーディオファンは度が過ぎると音の再生に関心が集中し、音楽はそっちのけになってしまう種族です。

研究分野が磁性材料のため録音用磁気テープ開発に関わりましたが、磁石が使われているスピーカーは、最も評価が難しいと言われていました。

若い頃にはとても高価だった当時の高級スピーカーも、中古で手の届く範囲で手に入ります。音も多少くたびれているでしょうが、聞く方の耳もくたびれてきていて心地よく感じられます。

今回は、人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻(消化器外科)
講師 小田竜也さんです。
「先輩教授の縁で磁気を使った医療に関わる共同研究を始めました。情熱的でMagneticな先生です。」

学術情報メディアセンター

関根 敏男さん



筑波大学職員野球部に在籍しています。好きな野球が続けられるので、チームの存在とメンバーに感謝しています。バットでボールを打つ爽快感はもちろん、試合でヒットを打ったら最高の気分です。相手の胸めがけて投げるキャッチボールは、続けて同じ所に投げることは難しく、丁寧な投球コントロールが必要です。ボールに投げる人の心が伝わります。近頃は、ベンチでの応援が多いのですが、いつまでもマウンドに立つ夢を抱いています。寒くなってきましたが、朝起きて小学生の息子とキャッチボールをする時、幸せを感じます。野球好きな方、一緒にいかがですか！

今回は、病院総務部総務課の柴貞重さんです。
「職員野球部初代マネージャーで、お酒の席までお世話になりました。スポーツ万能のすてきな女性です。」

附属学校教育局 教授
ひろし
小林 汎さん



夏、多少無理しましたが、スイスで2週間ほど過ごしました。グラウビュンデン州とザース谷を中心に、「夫婦で山歩き」をしてリフレッシュ、また秋から頑張ろうと言うわけです。

スイスは、10回目ぐらいでしょうか？

青い空、緑の草原そして白い氷河を見ながら歩くと、生きていることを実感します。

私の趣味は、山歩き、テニス、そして演劇・音楽鑑賞でしょうか。オペラはお金がかかるのが難点ですね。茗荷谷(附属学校教育局)と大学本部棟2F(学務)を行き来しながら、教員免許更新制などの仕事をしています。

何かの時に声をかけてくれると嬉しいです！

今回は、附属大塚特別支援学校副校長の神田基史さんです。
「副校長12年、全附連副校長会長の会長としても活躍。若いころの工藤・神田コンビが懐かしく思い出されます。」

附属病院 看護部(801病棟)
看護師

竹内 麻純さん



私は昨年ダイビングを始めました。海の中はとても綺麗で、魚やサンゴ礁を目の前にして、感動しました。海的美しさに、はまってしまい、以降、何度か伊豆へ潜りに行きました。潜るたびに疲れた心が癒されています。ぜひダイビングに少しでも興味を持っている方は挑戦してみてください。泳げない私にでも出来ているので、出来ると思いますよ。私ももっと色々な海に潜りに行けたらと考えています。

今回は、人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻(脳神経外科)
講師 中井啓さんです。
「気さくで、患者さんに優しい尊敬する先生です。」

図書館情報メディア研究科
図書館情報メディア専攻
教授

永田 治樹さん



これがあたって、スタンレー・ミルグラムの、世界中のすべての人が6人の知り合いを介せば芋蔓式につながっているというスモールド・ワールド実験を思い出した。

リレーの企画者は、そんなことを考えていたのだろうか。それに、ぼくにリレーした齊藤さんはここにきてのつながりだが、父上は昔の職場の先輩だったことを後から知った。確かに世間は狭い。

人とのつながりを人間関係と言い直してみると、日々の幸不幸を左右するというしんどい面がみえる。

しかしとりあえず、ここでは人のつながりをたどる、思いがけなさを楽しみたい。

今回は、人間総合科学研究科 芸術専攻教授の蓮見孝さんです。「人と人をつなぐ地域活動(水戸本町びよんた文庫)にいつとき巻き込んでくださった蓮見孝先生です。」

人間総合科学研究科 医学系支援室

佐野 英夫さん



マラソンと言うよりジョガーとして24年、家庭菜園での野菜作り12年が経過しました。禁煙を機に始めたジョギング、30分程度走ると汗びっしょり、何とも言えない爽快感です。年に2、3回のマラソン大会(最近10キロ前後の部)に楽しみで参加しています。公務員宿舎からの引越し先の周りが田畑だったこともあり、土、日を利用して家庭菜園で路地もの栽培をしています。特に、そら豆・落花生がビールに最高です。出来る限り無農薬を心掛けた収穫物はキャベツ、白菜、大根、レタスなど採れたての野菜が非常に美味しいです。爽快感と同様に達成感を感じるジョギング、無農薬で栽培した野菜の美味しさ、何れも健康を意識して今後も続けて行きたいと思っています。

今回は、総合事務センターの細田厚司さんです。「細田さんは、古銭収集と歩こう会の会長をしています。」

学務部学生生活課

土子 昇さん



10月に11歳の息子と5歳の娘に弟ができた。その日までワガママ独裁を続けてきた娘に代わって、新参者の彼が我が家の中心的地位に就いた。

娘は、生まれる直前まで「弟なんかいらぬ。」と小さな抵抗を続けていたとは思えないほど、彼のそばに付きっきりで、オシメを交換したりミルクを飲ませたりと、彼の機嫌取りで大忙しだ。

ワガママ末っ子から『お姉ちゃん』に成長した姿はけなげで愛おしい。

娘の耳元で「パパが一番好きなのは真鈴^{まりん}だよ！」とささやくと、娘は満面に笑みを見せ、一緒にお風呂に入ってくれる。

まだしばらくは、子育てで楽しめそうだ！

今回は、学術情報メディアセンター講師の佐藤聡さんです。「児童館での子育て仲間です。児童館キャンプでは後世に語り継がれる武勇伝をお持ちです。」

附属学校教育局 学校支援課

川尻 明男さん



マイブームは、北京五輪・柔道金メダリスト石井慧選手のプロ転向で注目された総合格闘技の観戦。附属学校教育局は、格闘技の聖地「後樂園ホール」に近く最高の勤務地だが、往復5時間の通勤時間を要する身としては、平日の観戦はあきらめている。

「さいたまスーパーアリーナ」での観戦が多いが、時には関西圏まで足をのぼす。

観戦は勝負論中心だが、煽りVTRや選手入場時の華やかな演出なども楽しめる。2万人規模の観衆が放つ熱気や声援、高揚感、TV観戦では味わえない空間だ。

今年も「たまアリ」で新年を迎え、一年がスタートした。

今回は、システム情報工学等支援室の佐藤君江さんです。「佐藤さんは図情支援室と一緒に仕事をした仲間です。韓国通で知られています。」

本学関係の主な新聞記事掲載一覧(10月～12月)

月	日	記事	掲載紙名
10月	2	本学と東京電機産業が共同でプラント操業支援システムを確立 熟練者のノウハウ蓄積	日刊工業
	7	県内の教員免許更新、本学など8大学・短大で講習 初年度定員は2,500人 本学開講は定員300人の必修講習を筑波キャンパスで3回、都内で1回を予定	茨城
	8	本学発ベンチャー企業・サイバーダインの開発生産拠点「つくば研究開発センター」が完成	毎日 日経 産経 東京 茨城 常陽 日経産業
	10	ロボットスーツ「HAL」、10/10日からリース販売開始 12月上旬にも出荷、年間500台の販売を目指す	日刊工業
	10	附属病院「先進医療」認可受け、陽子線でがん治療開始	日経 日経産業
	16	陽子線の治療可能施設として全国で5番目、大学病院では初	産経
	18	X線より少ない副作用	朝日
	10	「ラヂオつくば」が開局 県内3番目のコミュニティFM	読売 常陽
	11	足立和隆准教授や防災科学技術研究所の研究者らがつくばコミュニティ放送を設立 本学生らがパーソナリティー	産経
	12	周波数84.2メガHz 災害時は地域の情報伝達手段に	東京
	15		毎日
	12	本学が模擬法廷を改装 裁判員制度へ対応	茨城 常陽
	13		毎日
	16		日経
	16	第19回「緑のデザイン賞」国土交通大臣賞に本学・渡研究室「紡ぎの庭」検討会が入賞	産経 常陽
	21		産経
	18	新石器時代の「テル・エル・ケルク遺跡」本学調査団(団長・常木晃大学院教授)が世界最古の火葬場を発見	毎日
	20	▽グローバルView:地域貢献度ベスト30、本学第15位。国公立が存在感	日経
	21	本学遺伝子実験センター内にフランス国立農業研究所(INRA)の「国際ジョイントラボ」を開設	日経 産経 日経産業
	22	ナス科植物遺伝子の研究を進める	日刊工業
	23		常陽
21	後藤博正講師(数理工学系科学研究科物性・分子工学専攻)が常磁性高分子の合成に成功 らせん構造で光学活性 記録材料向け開発へ	日刊工業	
22	本学・小林達彦教授が観察、たんぱく質の新たな合成過程を発見	日経産業	
24	本学「国際科学五輪特別選抜」で合格発表。科学好きを確保。 生物5人、物理1人。2人は今年度の生物学五輪日本代表	毎日 読売 東京 茨城	
25		朝日	
28		常陽	
26	文部科学省、外務省が共同で、途上9か国と科学技術外交 本学研究チーム、エジプトを相手国に「ナイル流域の食糧・燃料生産研究」	読売	
27	本学先端学際領域研究センター・深水昭吉教授らの研究グループがたんぱく質の新たな仕組みを発見 細胞のがん化抑制 「アルギニンチメル化暗号(コード)」と命名	日経産業	
29	松浦美菜子さん(本学大学院人間総合科学研究科1年)中心に本学生らが研究・開発	毎日 読売 茨城 常陽	
30	筑波北条米でアイスクリーム「筑波米(マイ)スクリーム」を11/1販売へ	産経	
31		東京	
31	本学発ベンチャー「つくばスポーツインテリジェンス」(社長・阿江通良体育専門学群長)がスポーツ用品開発、来年スポーツメーカーから販売へ	常陽	
11月	1	本学新学長に附属病院長の山田信博氏を選定「若者に魅力ある大学に」	朝日 毎日 読売 日経 産経 東京 茨城 常陽 日刊工業
	3		
	5	袋田の滝観瀑トンネルに電飾 本学と提携の太子町が、本学生からアイデア募り、照明実現	茨城
	6	本学が医師育成拠点「筑波大附属水戸地域医療教育センター」を水戸協同病院に設置。	茨城
	7	本学と連携協力 全国から医師を公募 医師不足解消へ	毎日
	8		読売 日経 産経 東京
	16		茨城 常陽 朝日
	9	本学陸上競技場、全面改修を終え記念セレモニー こけら落としイベントに本学出身五輪メダリストの姿も	常陽
	9	本学とイランの考古学合同調査隊が「王の道」を確認 イラン南部のアケメネス朝ペルシャの王都・ペルセポリスとパサルガダエ間の谷	読売
	11	本学と産業技術総合研究ベンチャーなどが乳牛の発情を動画検知、対テロシステム応用	東京
	19	農家の負担軽減、受胎率の向上を図る	茨城
12	本学体育ギャラリーで創設130周年記念展「体操伝習所」公開 体育専門学群の学生らが構想・制作 130年前の体操復元	朝日	
13	天皇后両陛下、スペイン国王夫妻と本学をご訪問 ロボットスーツ「HAL」実演に「素晴らしい」と驚きの声 学生らと懇談も	朝日 毎日 読売 産経 東京 茨城 常陽	
19	本学・長崎幸夫教授らが脳梗塞で損傷抑える微粒子技術を開発 ラットで確認	日経産業	
28	第3回「科学の芽」賞、受賞者発表 国内外から1,248件の応募	毎日 常陽	
29	県内から4件7人 12/20に表彰式と発表会	毎日 朝日	
12月	3	北京五輪「金」・谷本歩実、「銅」・宮下純一の2選手、メダル獲得報告に本学訪問	朝日 毎日 読売 常陽
	4		茨城
	6	本大学院生のベンチャー企業・ソフトイーサが高速通信費を法人向けに大手の半額で提供	朝日
	7	本学などで来年7月開催の生物五輪の日本代表4人が決定 メダルに意欲 「生物学への関心高める好機」と同五輪組織委員会実行委員長の沼田治・本学大学院教授	読売 茨城
	12	本学とスターエンジニアリングが共同で国内初のマウス実験用ICタグを開発	日経
18	発がん抑制分子「有効」 渋谷彰・本大学院人間総合科学研究科教授らの研究グループが免疫監視のメカニズム証明	毎日 常陽 日経産業	

イベントカレンダー(1月~3月)

1月

- 5日(月) 仕事始め
学長年頭挨拶
- 17日(土) 大学入試センター試験(1/17~18)
- 20日(火) 東京理科大学との協定調印式
- 26日(月) 第1回筑波大学障害学生支援研究会
- 31日(土) 茗溪・筑波グランドフェスティバル
エコシティー 第16回つくば健康
マラソン大会

2月

- 1日(日) ビジネス科学研究科
企業科学専攻入学試験(2次)
- 2日(月) 大学院入試(2月期) (2/2~4)
- 3日(火) 芸術専門学群卒業制作展・
博士前期課程芸術専攻修了制作展
(2/3~22:茨城県つくば美術館)
- 6日(金) 第2回日中大学学術フォーラム(2/6~7)
- 12日(木) 2009日英学長会議(2/12~13)
- 21日(土) 附属学校研究発表会
- 25日(水) 前期日程試験(2/25~26)
- 27日(金) 第3学期授業終了

3月

- 2日(月) 附属駒場高等学校卒業式
- 4日(水) 附属坂戸高等学校卒業式
- 7日(土) ビジネス科学研究科
国際経営プロフェッショナル専攻
入学試験(3/7~8)
- 9日(月) 技術職員技術発表会
つくばWAN シンポジウム
- 12日(木) 後期日程試験
- 13日(金) 日中芸術交流展(3/13~23)
附属視覚特別支援学校卒業式
- 14日(土) 附属聴覚特別支援学校卒業式
- 17日(火) 附属中学校卒業式
附属大塚特別支援学校卒業式
- 18日(水) 附属高等学校卒業式
附属桐が丘特別支援学校卒業式
- 20日(金) 附属小学校卒業式
- 23日(月) 附属駒場中学校卒業式
附属久里浜特別支援学校卒業式
- 25日(水) 卒業式
大学院学位記授与式
- 26日(木) 附属学校教育局春期研修会
- 28日(土) 東京キャンパス大学院学位記授与式
- 31日(火) 永年勤続者(退職時)表彰式



Tsukuba Communications

vol.2

平成21年1月発行

編集・発行：筑波大学広報室
住 所：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
電 話：029-853-2063
E-mail：kohositu@sec.tsukuba.ac.jp



「開学記念館」

広々とした中庭の周りに、禅室・研修室・和室等が回廊でつながっている独特な建物で、本学唯一の和式の建物として建築されました。

多目的な研修施設として、研修のみならず授業やゼミの他、特に、茶道、華道、能狂言、三味線等日本的な課外活動の場として、積極的に利用されています。

